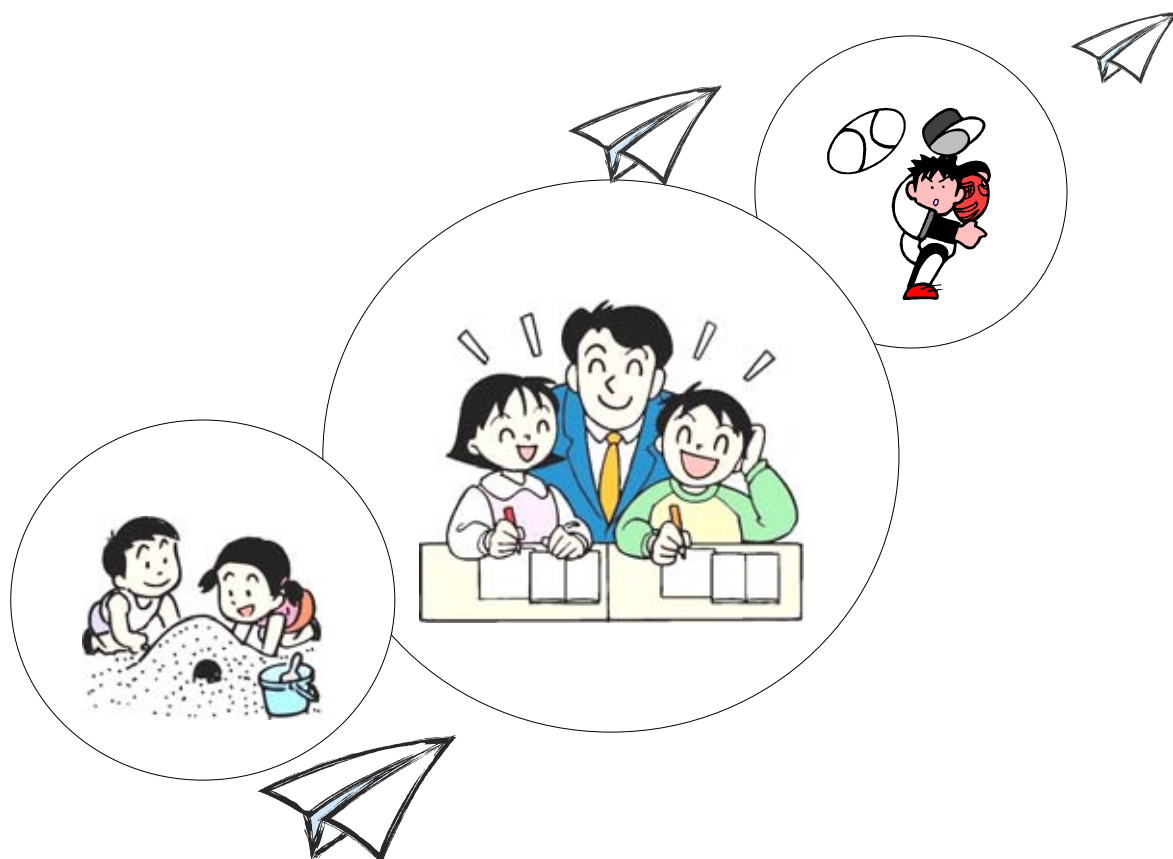


栗原市立学校再編計画

～ 子どもたちのために

よりよい教育環境を目指して ～



平成20年 3 月

栗原市教育委員会

目 次

| | |
|------|---|
| はじめに | 1 |
|------|---|

栗原市立学校再編構想

| | |
|----------------------------|---|
| 1 将来を展望した栗原市立学校が目指す学校教育の理念 | 2 |
| 2 「栗原市立学校再編計画」の基本的な考え方 | 3 |
| 1) 学校の小規模化, 学級の少人数化の傾向 | 3 |
| 2) 小規模校化に伴う教育環境等への影響 | 3 |
| 3) 望ましい教育環境 | 4 |
| 3 「栗原市立学校再編計画」の構成と期間 | 5 |
| 4 栗原市立学校の適正規模の基準 | 5 |
| 1) 小学校 | 5 |
| 2) 中学校 | 6 |
| 3) 幼稚園 | 6 |
| 5 適正配置 | 7 |
| 1) 小学校 | 7 |
| 2) 中学校 | 7 |
| 3) 幼稚園 | 7 |
| 6 適正化を実現する方法 | 8 |
| 7 特色ある学校づくり | 8 |

栗原市立学校再編計画 実施計画

| | |
|----------|----|
| 1 検討の手順 | 10 |
| 2 「前期計画」 | 11 |
| 3 「後期計画」 | 11 |
| 4 具体的な計画 | 12 |
| 5 推進日程 | 35 |

< 参 考 資 料 >

| | |
|----------------------------|----|
| 現在の小学校での学年別児童数・学級数・学級規模の推移 | 37 |
| 現在の中学校での学年別生徒数・学級数・学級規模の推移 | 38 |
| 栗原市立学校再編計画<前期計画>時の教職員配置の推計 | 39 |
| 市内小・中学校施設の状況 | 40 |

はじめに

栗原市教育委員会（以下「教育委員会」）は、小学校29校2分校，中学校10校1分校の児童生徒数を基礎とする学校規模の違い，幼稚園22園の保育年数の違いなど速やかに対応すべき課題と位置づけ，平成18年3月14日，栗原市学校教育環境検討委員会（以下「検討委員会」）に次の2項目を諮問しました。

- 1 栗原市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本的な考え方及び適正化に向けた具体的方策について
- 2 幼稚園の保育年数及び適正規模及び適正配置について

これを受け検討委員会で，18回にわたる審議が行われ，教育委員会は，平成19年9月6日「最終報告」として，答申を受けました。

検討委員会では，「教育の質を維持し向上するためにどうしたらよいか」「子どもたちの成長にとって何が大切か」「安心して生み育てることのできる教育（保育）環境は何か」の3点を基本に据えて検討してきました。

教育委員会としても，検討委員会が検討の基本に据えた視点は，第一義に考慮しなければならない視点であると受け止めました。

教育委員会は，学校が地域の皆様に支えられてきた歴史的経緯とコミュニティの核としての学校の役割について考慮しながらも，著しい小規模校化が進行している現状に鑑み，栗原の将来を担う子どもたちの「教育環境を改善」することを最重要課題と位置づけ，その実現を目指していきます。

このことを基本方針として，検討委員会がまとめた最終報告を最大限に尊重し「栗原市立学校再編計画」を策定するものです。なお，この計画は，「栗原市立学校再編構想」と「栗原市立学校再編計画 実施計画」で構成し，「実施計画」は，平成20年度から平成25年度までに進める「前期計画」と平成31年度までに進める「後期計画」としています。

栗原市立学校再編計画は，教育委員会の考え方を市民の皆様提案する計画であり，今後それぞれの地域で話し合いを重ね合意形成を図りながら学校再編を実現していくことを基本に進めてまいります。

栗原市教育委員会

栗原市立学校再編構想

1 将来を展望した栗原市立学校が目指す学校教育の理念

『知性と創造性に富み，心豊かでたくましい人間の育成』

栗原市の将来を担う子どもたちが活躍するこれからの社会は，これまで以上に情報化，国際化，価値観の多様化，そして高齢化が進むといわれており，生活文化が「物の豊かさから心の豊かさへ」「均質性から多様化へ」とますます変化していくことが予想されます。

このような社会の変化に主体的に対応できる，心豊かでたくましい人間の育成を目指し，教育委員会は，「学校教育の基本目標」を次のとおり掲げています。

めざす『栗原っ子』像

好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども

- 生きる力の知的要素である確かな学力を身につけます。 -

感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども

- 生きる力の心的要素である自らを律しつつ，周りの人と協調できる豊かな人間性を培います。 -

心身ともに健康で たくましく活動する子ども

- 生きる力の基礎ともいえるたくましく生きるための健康や体力を育みます。 -

この理念のもと，確かな思考力や判断力，表現力や情報活用能力等を身につけていくことなど，子ども一人ひとりに，自ら行動する力，自ら未来を切り開きたくましく生きる力を身につける教育を進めてまいります。

学校教育においては，児童生徒一人ひとりが主体的な学習活動を通して，確かな学力を身につけるとともに，集団の中で互いに学び合い，尊重し合い，幅広い資質を培うことを目指してまいります。

2 「栗原市立学校再編計画」の基本的な考え方

栗原市総合計画（平成19年3月決定）では、栗原市の将来像の一つに「豊かな感性と生きる力を育むまち」を挙げ、基本方針の第一に「次代を担うたくましい子どもの育成」を掲げています。この方針に基づき「学校教育施設等の適正規模、適正配置を図りながら、安心して学習に取り組める環境整備の推進」と施策に掲げています。

教育委員会は、学校教育の理念のもと、基本目標を達成するため、望ましい集団、学校組織を構築し、地域と連携して学校教育環境を整えていきます。

1) 学校の小規模化、学級の少人数化の傾向

栗原市は、合併前の旧町村教育委員会が所管する小学校29校2分校、中学校10校1分校、幼稚園22園をそのまま継承しました。新市となった現在、改めて市全体を見渡してみると学校規模の違いが大きくなっています。

少子化は全国的な傾向ですが、栗原市の場合、過疎化に拍車がかかっており、複式学級¹⁾の編制や60人未満の小規模校の増加など教育環境への影響が大きくなっています。

平成19年5月1日現在、複式学級を編制する小学校が7校となっており、児童数が60人未満となる小学校も10校に及び市内全体の3分の1となっています。

また、平成19年4月20日現在の市内小学校入学前乳幼児で将来の児童生徒数を推計すると、平成25年度までに複式学級の編制基準に該当する小学校が16校で、全体的に各学年20人未満となる小学校を併せると19校となり、さらに、男女どちらかだけの学年や男女どちらかが1人だけという学年も出現する見込みであり、小規模校化、学級の少人数化がますます進行、深刻化する傾向にあります。

2) 小規模校化に伴う教育環境等への影響

少人数（20人未満）の学級や全学年が1学級程度の小規模小学校では、児童一人ひとりに目が行き届き、例えば算数の九九や縦笛の練習など繰り返し練習する場合に入念に教えることができるといった、きめ細かな指導ができます。

また、それぞれの先生が自分の担任する学級以外の子どもにも目の届く機会も多く、先生と子どもたちが一体となり学校ぐるみで特色ある学習の場をつくりやすい条件が整っているといった良さがあります。

その一方で、友達の多様な考えにふれて学び合い、学習の成果を深化・発展させることが難しくなりがちです。さらに、グル・ブ学習などの学びの形態に多様性が持てないという状況もあります。

また、体育では、ポートボールやサッカーなどの集団で行うゲームの場合、少人数のためどうしてもミニゲーム形式をとることになり、正規のルールや試合方法を体得することが難しくかったり、さらに、現在増加している10人未満の学級では、ミニゲームもできない状況です。音楽では、少人数合奏はできても、各学年の領域に合わせた大合奏は望めなくなります。

¹⁾ 複式学級は、小学校の連続する2つの学年に在籍する児童数が16人以下の場合は、この2つの学年で1学級を編制することになります。これは、一人の学級担任が、2つの学年を1つの教室で指導することになります。また、第1学年と第2学年の場合は、児童数が8人以下になると複式学級となります。

ただし、その複式学級の児童数が13人以上いる場合は、県単独による教諭等の臨時的加配措置により、当該学校に1人の教員が配置されます。

中学校の連続する2つの学年に在籍する生徒数が8人以下の場合は、この2つの学年で1学級を編制することになります。

小規模校では、運動会や学芸会などの各種の行事等において選手や発表の主役になる機会に恵まれており、子どもたちの出場・出演の場が多くとれます。また、子どもたちのそれぞれが、何らかの役割を分担するため行事への一人ひとりの参加意識は高まります。

その一方で、少人数の場合、運動会では、組み体操やダンスなど集団演技ができにくく、団体種目を通して学ぶ協力の大切さや楽しさを経験することが難しかったり、学芸会の劇では、全員に役をふりあてても、まだ出演者が足りず、結局、脚本を大幅に修正して演じる方法をとらざるを得ない場合があります。また、子どもたち一人ひとりが何らかの役割を分担することで参加意識は高まりますが、準備・出場・後片付けと忙しすぎる状況で大きな負担になるといわれています。

中学校では、生徒の希望する部活動が成立しにくい状況があり、希望する活動を選択できないという課題もでてきます。

学校では、教科等の基礎・基本の定着を図り、一定の集団によって応用力を身につけることを目標としています。また、集団活動を通して児童生徒の社会性を涵養するという目標もあり、学校規模や学級集団が小さくなると、このような教育効果を得ることが難しくなります。

さらに、教員配置においては、小学校で通常の学級数が5学級以下になると学級担任が教務主任を兼ねなければならなくなります。中学校においては9学級以下になると教科ごとに専門の教員が配置されなくなる可能性が高くなります。

今後は、学級や学年の集団を基本とし、少人数指導（授業）やT T指導²⁾を積極的に取り入れ基礎・基本の定着を図り、さまざまな人の考え方を取り入れ自分の思いや考えを深め、思考力、応用力を高めていきます。また、各教科、道徳、特別活動等のさまざまな活動を通じて、個人を超えた集団としての機能を発揮させ、集団の一員として社会のルールを学び取りながら、さまざまな知識や技能を体得させていきます。一定の集団の中で、さまざまな体験活動を通して、心身ともに鍛え合いそれぞれが自ら成長できる力を高めていきます。このことの実現が求められると考えます。

3) 望ましい教育環境

市内では、小規模校の良さを活かしながら、できるだけ小規模校のマイナス面を補うような教育が行われています。しかし、多くの小学校で複式学級が今後増加する見込みとなり、個々の小規模校における取組だけでは克服することが難しい、学校規模そのものに起因する課題が顕在化してきています。

「2) 小規模校化に伴う教育環境への影響」で記述したように、学校規模や集団が小さくなることによるさまざまな懸念が生じており、学校教育環境をいかに整えるかが栗原市の重要な教育行政課題となっています。

小規模校の課題など学校教育環境について、教育の機会均等の観点から、市内の小中学校、幼稚園を全市的な視野に立って、公平性を確保する努力をしていかなければならないと考えます。

小規模校の課題を解消し教育効果を高めていくには、次に挙げる学校規模を確保していくことが必要になります。

²⁾ T T指導は、ティーム ティーチングの略称で、1つの学級で複数の教員が指導にあたる個に応じるきめ細かな指導法です。

- ・児童生徒間，児童生徒と教師間において多様な人間関係をはぐくみ，互いに理解を深め，切磋琢磨し合いながら社会性を養っていく学校規模。
- ・グループ学習や部活動，学校行事など一定の規模の集団による教育活動が成立する学校規模。
- ・校内で，教職員の教科研究や指導の充実が日常的に可能となる適正な数の教師集団で構成される学校規模。

3 「栗原市立学校再編計画」の構成と期間

本計画は，栗原市立学校再編計画の基本的な方向性を示す「構想」と統合または学区³⁾再編を具体的に示す「実施計画」で構成しています。

なお，「実施計画」は，前期及び後期に分けた計画としています。「前期計画」は，複式学級の編制が想定される場合及び単学年で20人未満となる小学校と，単学年1学級編制となる中学校を対象に平成25年度までに再編を進めていきます。また「後期計画」は，平成19年度以降に出生する将来の児童生徒数の動向を見極め，また前期計画の進捗状況を考慮した見直しを行い，平成31年度までに再編を進めていきます。

幼稚園については，新たに3年保育に取り組むために，確実に施設整備が必要になってくることから計画的な施設整備を行い，できるだけ早い時期に実施していくこととします。

「実施計画」は，教育委員会が市民の皆様にご提案をする計画となります。そのため計画を示し，個別に地域の皆様と話し合いを重ね合意形成を図りながら進めていきます。

4 栗原市立学校の適正規模の基準

学校教育においては，集団からさまざまな刺激，葛藤などの影響を受けて，学力はもちろんのこと，人間性，社会性がはぐくまれていくものと考えられます。子どもたちの成長にとって好ましい学校教育環境を実現していくために，栗原市としての適正な基準が必要であると考えています。

現在の市内各学校の良さを活かしつつ，教育課程を適切に実施するための，学校として必要な一定の規模を「適正規模」ととらえ，基準を設定しています。

1) 小学校

ア，学年規模：各学年でクラス替えによる交流を可能にするため，各学年2学級以上とし，全体で12学級以上の確保を目指します。

ただし，各学年3学級程度（全体で18学級程度）を上限の目安とします。

³⁾学区は，1つの小中学校，幼稚園に通学，通園する区域のことをいいます。

イ、学級編制：現在、宮城県独自に小学校 1～2 年生で、35 人を標準とする学級編制⁴⁾を可能とする、学級編制弾力化事業が行われています。

栗原市においては、小学校 3～6 年生の学年を含め全ての学年において 35 人を標準とする学級編制に取り組みます。

なお、35 人を標準とする学級編制は、統合・学区再編が実現した時点から実施します。ただし、再編の実施にかかわらず、平成 25 年度から実施します。

現行の 40 人を標準とする学級編制の中で、当面 35 人を標準とする学級編制を実現させ、国の制度改正等を見極めながら、将来的に 30 人を標準とする学級編制も視野に入れていきたいと考えています。

2) 中学校

ア、学校規模：専門の教科担任を確保し、授業時数の多い 5 教科（国，社，数，理，英）で複数の教員，授業時数の少ない実技系教科（音，美，保体，技家）でも専門の教員が配置され，充実した教科指導が可能になるように，全体で 9 学級以上（各学年 3 学級以上）の確保を目指します。

ただし，各学年 5 学級程度（全体で 15 学級程度）を上限の目安とします。

イ、学級編制：現在、宮城県独自に中学校 1 年生で、35 人を標準とする学級編制を可能とする、学級編制弾力化事業が行われています。

栗原市においては、中学校 2～3 年生の学年を含め全ての学年において 35 人を標準とする学級編制に取り組みます。

なお、35 人を標準とする学級編制は、統合・学区再編が実現した時点から実施します。ただし、再編の実施にかかわらず、平成 25 年度から実施します。

現行の 40 人を標準とする学級編制の中で、当面 35 人を標準とする学級編制を実現させ、国の制度改正等を見極めながら、将来的に 30 人を標準とする学級編制も視野に入れていきたいと考えています。

3) 幼稚園

ア、保育年数：市立幼稚園の保育年数を 3 年にします。

イ、学級規模：標準とする学級の人数規模を 3 歳児 20 人程度，4・5 歳児 30 人程度を原則とします。

ウ、幼稚園規模：幼児教育においては、「一定の集団を形成し群れて遊ぶ」という要素が大事になります。そのため、年齢児ごとに 1 学級、幼稚園全体で 3 学級 80 人程度、又はこれを超える規模を基本とします。

⁴⁾ 35 人を標準とする学級編制とは、学年の人数が 35 人までは 1 学級編制ですが、学年の人数が 36 人になると 2 学級編制になり、1 つの学級の人数は 18 人になります。つまり、1 つの学級が 18 人～35 人の範囲で編制されます。

5 適正配置

小中学校幼稚園の適正配置については、児童生徒にとって自宅と学校の距離が可能な限り近いことが理想であると考えています。しかし、再編計画の基点となった課題は、児童生徒数の減少による学校の小規模化であったことから、まずは適正規模の確保を第一に考慮した計画としています。

1) 小学校

ア、学校数：市内全体で「前期計画」において12校程度、「後期計画」において小中一貫校の創設を含めて10校（原則として旧町村ごとに1校）程度の配置とします。

なお、再編計画は、現在の中学校区を基本としますが、統合または学区再編によって旧町村境界を越えることもあります。

イ、通学支援：統合・学区再編を行う際の通学距離は、4キロメートル以内を基本としますが、統合・学区再編の実施に伴いこれを超える通学距離になることが想定されます。その場合は、必要な通学支援を行うことにします。

2) 中学校

ア、学校数：市内全体で「前期計画」において8校程度、「後期計画」において小中一貫校・中高一貫校の創設を含めて6～8校程度の配置とします。

イ、通学支援：統合・学区再編を行う際の通学距離は、6キロメートル以内を基本としますが、統合・学区再編の実施に伴いこれを超える通学距離になることが想定されます。その場合は、必要な通学支援を行うことにします。

3) 幼稚園

ア、幼稚園数：市内全体で10園程度とします。

ただし、私立幼稚園と共存する立場で、協議を行います。その結果、1～2園増減する可能性があります。

イ、通園方法：基本的には、通園バス等を利用することとして配置を考えます。ただし、自宅から幼稚園まで徒歩で通園可能な園児を除きます。

ウ、保育形態：地区内に居住する乳幼児数や現在の幼稚園・保育所の施設状況などを鑑み、幼稚園保育所一体型の施設整備を行い、幼児教育・保育を一元型⁵⁾の保育形態を積極的に推進していきます。

⁵⁾ 幼児教育・保育の一元型は、現在の幼稚園と保育所を同一施設（敷地）に設置して、幼稚園児・保育所児を分け隔てなく同じ年齢の幼児で学級編制を行い、例えば、午前は「幼稚園教育要領」に基づく教育を行い、午後は「保育所保育指針」に基づく保育を行うことなどの取り組みをいいます。

6 適正化を実現する方法

適正規模を確保するための具体的な方法は、学校の統合または通学区域を見直し学区を再編することが基本となります。具体的には、対象となる児童生徒数の推移や市総合計画などを総合的に検討して計画しました。

統合または学区再編にあたっては、地域での話し合いを重ねて合意形成後、実施までに1年から2年までの準備期間を置き、どの校舎施設を利用する場合でも新たな学校を創設することと捉え、校名・校歌・校章・校旗・制服等について児童生徒及び保護者との協議を行っていきます。また、児童生徒やPTA（父母教師会）、教職員の相互交流を行い、スムーズな統合と統合後の混乱を最小限に抑えることに努めていきます。

7 特色ある学校づくり

栗原市立学校再編を契機に「特色ある学校づくり」にも取り組んでいきます。

これは、将来を見据えた学校づくりのモデル校としての性格を持たせ、学校再編後の学校とともに市立学校全体の活性化の役割を果たしていくことを目的としています。

ア、小中一貫校

小中一貫校は、小学校6年と中学校3年の9年間を一貫した弾力的な教育課程を編成して、児童生徒の発達に合わせた教育を行うことが可能になります。

例えば、児童生徒の発達に合わせた「4・3・2」制の導入、国・算・理・社の授業数増や小学校英語の導入などが可能となります。また、カリキュラムも中学年部(小5～中1)から学力向上などを目指した教科担任制を取り入れ、例えば理科の実験が増え、目で見て耳で聞く体験型学習の機会が増えるなど子どもたちにとって楽しみながら学べる授業が展開できます。さらに、英語の授業も小5から始められ、歌やゲームを交えた親しみやすい英語学習が可能となります。そのほかに、いわゆる「中1ギャップ⁶⁾」の解消も期待できます。

栗原市では、中学校の教科担任を確保する観点から、小中学校の各学年で2学級程度が一定期間確保できる場合などに、特色ある学校づくりの一つとして小中一貫校を創設していきます。

イ、中高一貫校

中高一貫校は、中学校3年と高校3年の6年間を通じて、「計画的・継続的な教育」を行うことを目指しています。既に、平成10年に「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行されており、法的にも中高一貫校の創設は可能になっています。

中高一貫校には3つの形態があります。

⁶⁾ 中1ギャップは、小学生から中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじみにくいことをいいます。

一つは、「連携型中高一貫校」で、市町村立中学校と県立高校等が教育課程の編成や教員・生徒間の連携交流を進め、高校の入学選抜においても、「調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことができる」など、一定の条件下で連携中学校の入学について配慮していくというタイプです。宮城県内では南三陸町立4中学校と県立志津川高等学校が該当します。

二つは、「併設型中高一貫校」で、同一の設置者（例えば、宮城県）が設置するもので、中学校や高等学校の教育課程において学習指導要領基準の弾力的運用等の特例が認められ、中学から高校への入試は原則行いません。宮城県内では、旧宮城県古川女子高等学校を改称し共学化した古川黎明高等学校と県立の古川黎明中学校が平成17年度よりスタートし、3年目を迎えています。宮城県全域からの入学を認めているため、中学校入試は数倍という高倍率となっています。

古川地区と他地区の入学割合は約6：4で、広域から学習意欲の高い生徒が入学しており、今後の成果に期待が集まっています。

三つは、「中等教育学校」で、これは全く新しく創設するタイプの学校です。中学校と高等学校を一体にした学校で、教育課程は中高6年間の一貫した編成が可能となり、例えば中学校段階から高校レベルの英語や数学の教育が可能になるなど、首都圏や関西の名門私立学校が先駆けて導入を開始したタイプの学校です。宮城県内の公立においてはまだ導入されていませんが、設置者は県でも市でも可能です。ただし、新しく学校を創設するため、設置費用が多額となることが課題であるとされています。

宮城県教育委員会が平成16年3月に公表した「県立高校の後期の再編について」によると、現在栗原市にある5県立高校が、さらに再編され既に再編実施された築館高校、迫桜高校の2校だけとなる可能性もあります。

こうした状況の中で、中高一貫校の創設は、市立中学校の学力向上のけん引役として期待できます。また、市内小中学生の多様な進路選択を保障するとともに、既に再編された築館高校・迫桜高校とともに高校配置のバランスを確保することによって、市北西部からの長くなる通学距離の緩和にもつながります。

栗原市民が、市外に流出する子どもたちの姿を見る時、「地域の子どもは地域で育てたい」「特色ある学校を地元で創れないものか」と願うのは自然な心情であり、「特色ある学校づくり」の一つとして、「中高一貫校」の創設について検討する必要があります。

栗原市としては、「併設型中高一貫校」または「連携型中高一貫校」の創設を目指して、県立高校の設置者である宮城県と協議を進めていきます。できるだけ早い時期に栗原市の意向を伝え、中高一貫校としての特色づくりなどの協議を進め、その実現に向けて取り組んでいきます。

栗原市立学校再編計画 実施計画

1 検討の手順

1) 確認事項

適正規模の確保に向けた「栗原市立学校再編計画」を検討するにあたって、以下の項目で各校の現状などを確認しました。

現在の学校のままの児童生徒数・学級数の将来推計

隣接校を含めた児童生徒数・学級数の将来推計

隣接校を含めた地理的状況・通学上の課題・市総合計画等

2) 統合・学区再編の検討

「1) 確認事項」により各校の状況を確認した上で、それぞれの対象校について適正規模を確保する方法としての統合もしくは学区再編を行うことが可能かどうかについて検討しました。

統合・学区再編の組み合わせ

対象校及び相手校の児童生徒数・学級数の将来推計による規模及び地域形成の状況によって、統合もしくは学区再編の方法を選択しました。

この際に、適正規模の基準の境界にある学校や将来推計で乳幼児数の伸びを示している学校については、今後の動向を見守ることにしました。

なお、学区再編を行う場合は、「原則として行政区を単位」とした再編とします。

通学距離

統合・学区再編を行う際の通学距離は適正配置の基準で示したとおり、小学校でおおむね4キロメートル以内、中学校でおおむね6キロメートル以内とします。

この基準を超えるような場合であっても、公共交通機関やスクールバスを利用することが可能と考えられる場合は、通学上の負担を考慮して、所要時間はいずれも1時間以内に設定しました。

小学校の学区と中学校の学区の関係

子どもの成長を考えると、多様な人間関係を構築し、切磋琢磨し合うことが可能となるように中学校の学区は、複数の小学校の学区で構成されることを基本としました。

また、中学校の立地条件や施設規模を考慮すると、必ずしも小学校の学区が1つの中学校の学区に接続することにはならない場合があることは、やむを得ないと判断しました。

2 「前期計画」

学校再編は、「教育の質の維持と向上」「子どもたちの成長にとって何が大切か」「安心して生み育てることのできる教育（保育）環境」を観点として計画していきます。

子どもの成長には片時の猶予も許されません。教育環境の改善を図るため、平成31年度までに進める「後期計画」の実現を目指しながらも、現在の状況を踏まえると、できるだけ早い時期に学校教育環境の改善が必要になります。

全市的な視野に立ち、次のような観点で該当する小中学校・幼稚園を対象校とした、統合または学区再編を緊急に取り組むべき「前期計画」として平成25年度までに実施していきます。ただし、早急な統合再編の要望もあることから、合意が得られた場合、可能な限り早期に実施していきます。

なお、この再編は対象校の学級数や施設設備を考慮すると、現有の校舎や設備を活用することによって早期の統合・学区再編が可能であると考えます。

小学校

- ・ 平成25年度までの学級編制において、複式学級の編制が想定される16校を対象とし、当面6学級以上を確保し、複式学級を解消していきます。そのうえで、学年ごとに学級担任の配置を実現し、教育指導の充実を図ることを目指しています。
- ・ 学校規模が6学級確保されていても、各学年において20人未満の学級編制となる3校も対象とし、一定の学級規模を確保することにより、学級内での学び合いを高めていくことをねらいとしています。

中学校

- ・ 現在推計できる平成31年度までの学級編制において、半数以上の学年が1学級編制となる3校を対象とします。これは、検討委員会で「児童生徒の豊かな人間関係の構築という観点から小中学校ともにクラス替えが可能になるよう各学年で複数学級が必要である」との指摘がありました。このことから、「前期計画」では、中学校の学年1学級編制を解消し、全学年で複数学級となる学年規模の確保を目指します。

ただし、新たに市南部地区への企業誘致が決定したことから、南部地区2校の前期計画での再編については、後期計画まで推移を見守ることにします。

幼稚園

- ・ 幼稚園の3年保育を実現していくためには、多くの地区で施設整備が必要となります。現有施設で一定規模がある幼稚園では、3年保育は早期に実現が可能ですが、新たな施設整備が必要となる地区は、早期に具体的な施設整備計画を立て、できるだけ早い時期に市立幼稚園の3年保育の実現及び幼保一元化を推進していきます。

3 「後期計画」

実施計画は、平成19年4月以降に出生する将来の児童生徒数の推移を見極め、また「前期計画」における地域の皆様との話し合いや国の制度改正の動向を考慮して、平成24年度において見直し作業を行い、見直し後の「後期計画」を決定して平成31年度までの実現を目指します。

4 具体的な計画

玉 沢 小 (児童数 92人, 通常の学級数 6学級)

【方法等】

- ・将来推計からは, 今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。
- ・隣接校は, 適正規模の基準を満たす築館小学校と基準を満たさない瀬峰小学校が1校ずつとなります。
- ・地形から見て学区再編のケースには該当せず, 統合による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

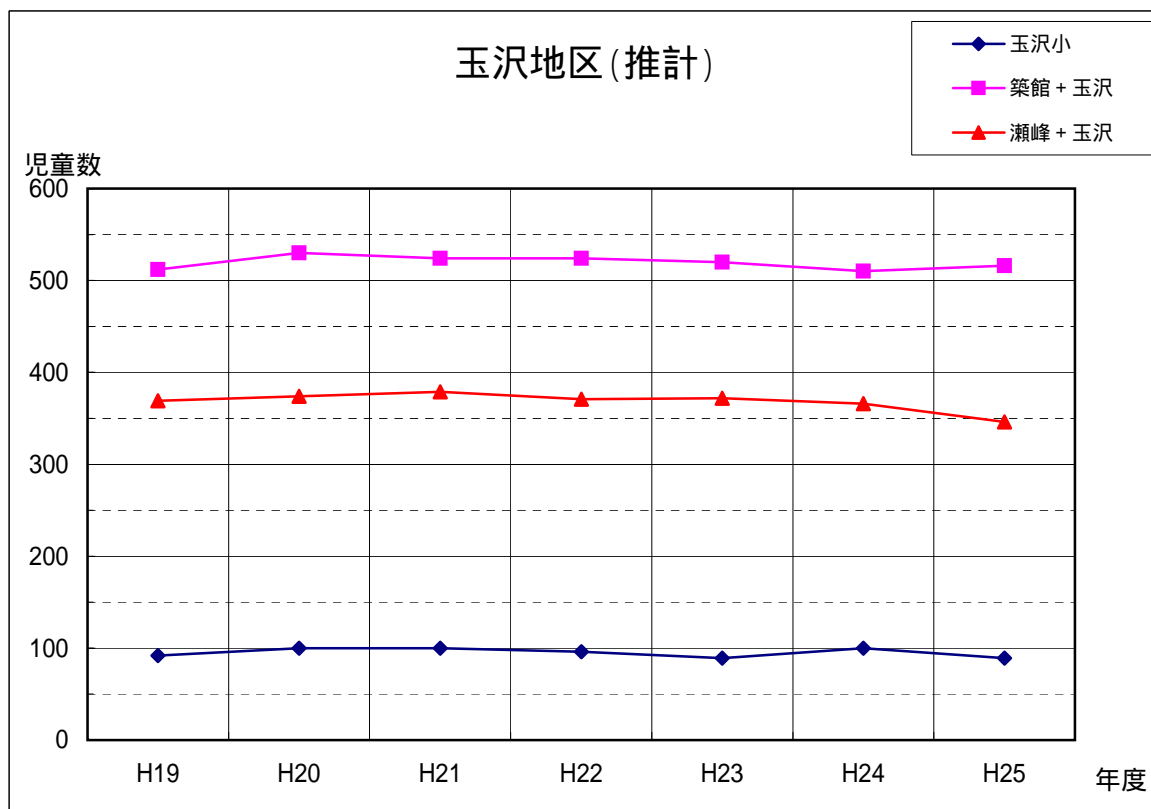
- ・隣接する2校とは, いずれも統合によって適正規模の基準を満たします。
- ・統合を行った場合, どちらの組み合わせでも適正規模の基準を満たし, 適正規模の上限を超えない規模となります。ただし, 通学距離や地形を考慮する必要があると考えられます。
- ・こうしたことから, 築館小が統合の相手校として妥当と考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|----|-------|------|------|----|----|----|----|----|------|-------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | |
| 玉沢小 | | 22 | 7 | 17 | 17 | 21 | 5 | 89 | 3 | 92 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | 7 |
| 築館+玉沢 | 太田井守沢 7.6 km | 83 | 92 | 84 | 86 | 95 | 65 | 505 | 7 | 512 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 17 | | | 17 |
| 瀬峰+玉沢 | 照越上ノ沢 12.4 km | 71 | 56 | 54 | 65 | 62 | 53 | 361 | 8 | 369 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 13 | | 3 | 16 |

表中の「75条, 75条学級」は, 学校教育法第75条で規定する特別支援学級を指します。以下の各表においても同様です。

表中の統合の組み合わせによる学級数は「35人を標準とする学級編制で想定した学級数」で, 網掛け部分は40入学級と比較し学級数が増加することを示しています。以下の各表においても同様です。



グラフの年度ごとの児童数は, 「平成19年5月1日現在の各校在籍数と平成19年4月1日までに生まれて市内に居住している乳幼児数」を基礎としています。以下の各グラフにおいても同様です。

宮野小（児童数116人、通常の学級数6学級）

【方法等】

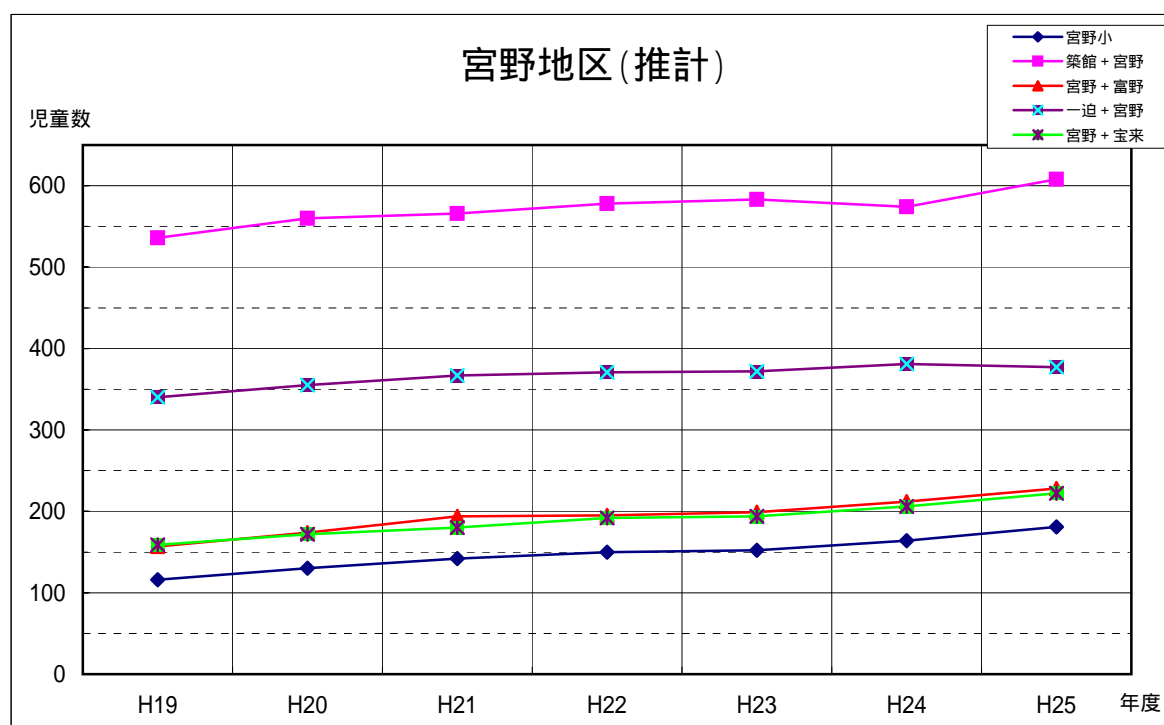
- ・将来推計からは、平成20年度の入学児童から増加傾向を示していますが、適正規模の基準を満たす可能性はまだ低い状況です。
- ・平成20年度から平成25年度までの学年規模をみると、1学級編制となりますが20人を超える学級規模が維持でき、学級内での学び合いを確保するという点では、一定の規模といえます。
- ・こうしたことから、他の対象校との統合・学区再編との調整により、場合によっては当面児童数の動向を見守ることも必要であると考えられます。

【相手校等】

- ・築館小・一迫小との統合の場合は、適正規模の基準を満たします。その他の2校と統合の場合は、いずれも適正規模の基準を満たしません。
- ・築館小と一迫小のどちらとの統合でも適正規模の基準を満たし、適正規模の上限を超えない規模となります。ただし、通学距離や地勢を考慮する必要があると考えられます。
- ・こうしたことから、築館小が統合の相手校として妥当と考えられますが、【方法等】で示したとおり、当面は児童数の動向を見守ることにします。

(H19.5.1現在)

| 小学校 | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----|----|----|----|----|-----|----|-------|------|------|----|----|----|----|----|--|------|-------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | | |
| 宮野小 | | 24 | 18 | 20 | 22 | 15 | 17 | 116 | | 116 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | 6 |
| 築館+宮野 | 芋埴沼ヶ崎 5.6 km | 85 | 103 | 87 | 91 | 89 | 77 | 532 | 4 | 536 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 18 | | | 2 | 20 |
| 宮野+富野 | 富大沢 6.6 km | 30 | 27 | 23 | 34 | 18 | 25 | 157 | 0 | 157 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | 6 |
| 一迫+宮野 | 芋埴沼ヶ崎 8.8 km | 74 | 49 | 53 | 55 | 54 | 51 | 336 | 4 | 340 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 13 | | | 2 | 15 |
| 宮野+宝来 | 片子沢猫ノ沢 9.0 km | 30 | 25 | 26 | 30 | 23 | 25 | 159 | 0 | 159 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | 6 |



富野小（児童数 41人、通常の学級数 4学級）

【方法等】

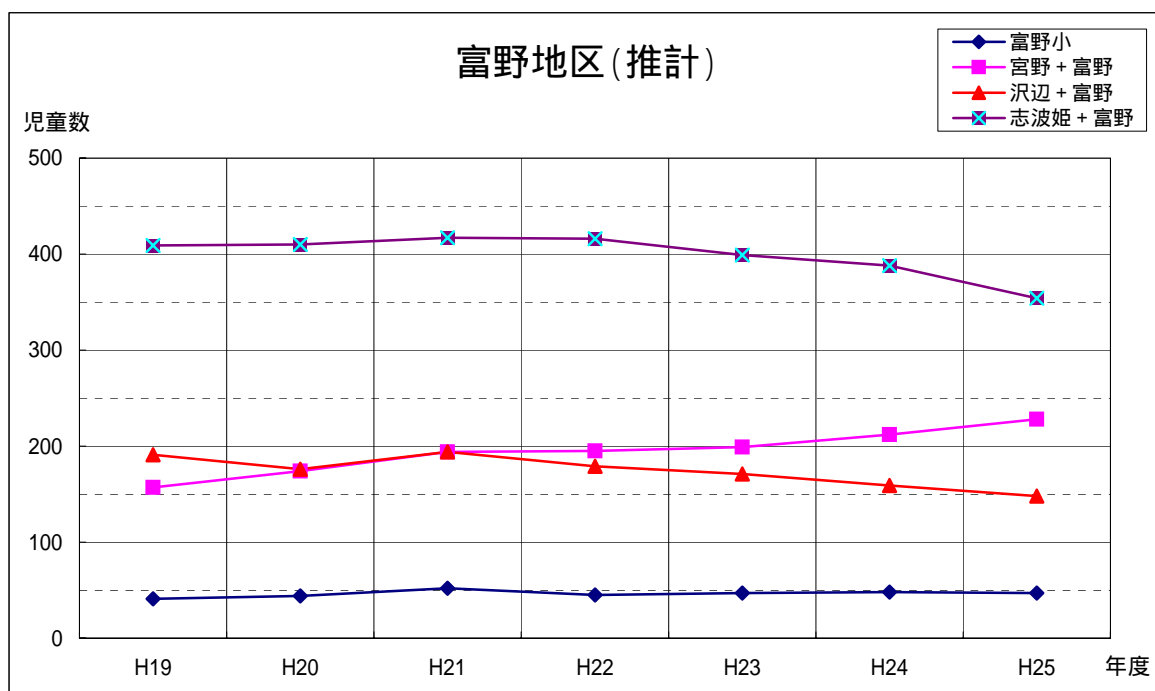
- ・将来推計からは、今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに複式学級の編制が今後も想定されます。
- ・隣接する3校のうち、志波姫小学校が適正規模の基準を満たしており、他の2校は適正規模の基準を満たしていません。
- ・地域の環境を見ると、統合もしくは学区再編の双方が考えられます。まずは、統合による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・志波姫小との統合の場合は、全ての児童が利用することになる阿久戸橋は、欄干も無く幅員も狭く危険なので、相手校としては適当でないと考えます。
- ・宮野小と統合しても適正規模の基準を満たしません。ただし、宮野小は、存続して児童数の推移を見守ることにしていることから、宮野小との統合が妥当であると考えられます。
- ・一方で、地域形成の状況から学区での話し合いによって、金成地区小への学区再編を希望される行政区があれば柔軟に対応してまいります。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|----|-----------|------|------|----|----|----|----|----|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | 複式 学級 | 75条 学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | |
| 富野小 | | 6 | 9 | 3 | 12 | 3 | 8 | 41 | | | 41 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 | | 4 | |
| 宮野+富野 | 富大沢 6.6km | 30 | 27 | 23 | 34 | 18 | 25 | 157 | 0 | 157 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | 6 |
| 沢辺+富野 | 黒瀬後畑 5.6km | 26 | 38 | 28 | 36 | 21 | 40 | 189 | 2 | 191 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 9 | | 1 | 10 |
| 志波姫+富野 | 黒瀬北向 6.3km | 70 | 73 | 71 | 62 | 62 | 64 | 402 | 7 | 409 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 14 | | 4 | 18 |



高 清 水 小 （児童数 2 2 0 人，通常の学級数 6 学級）

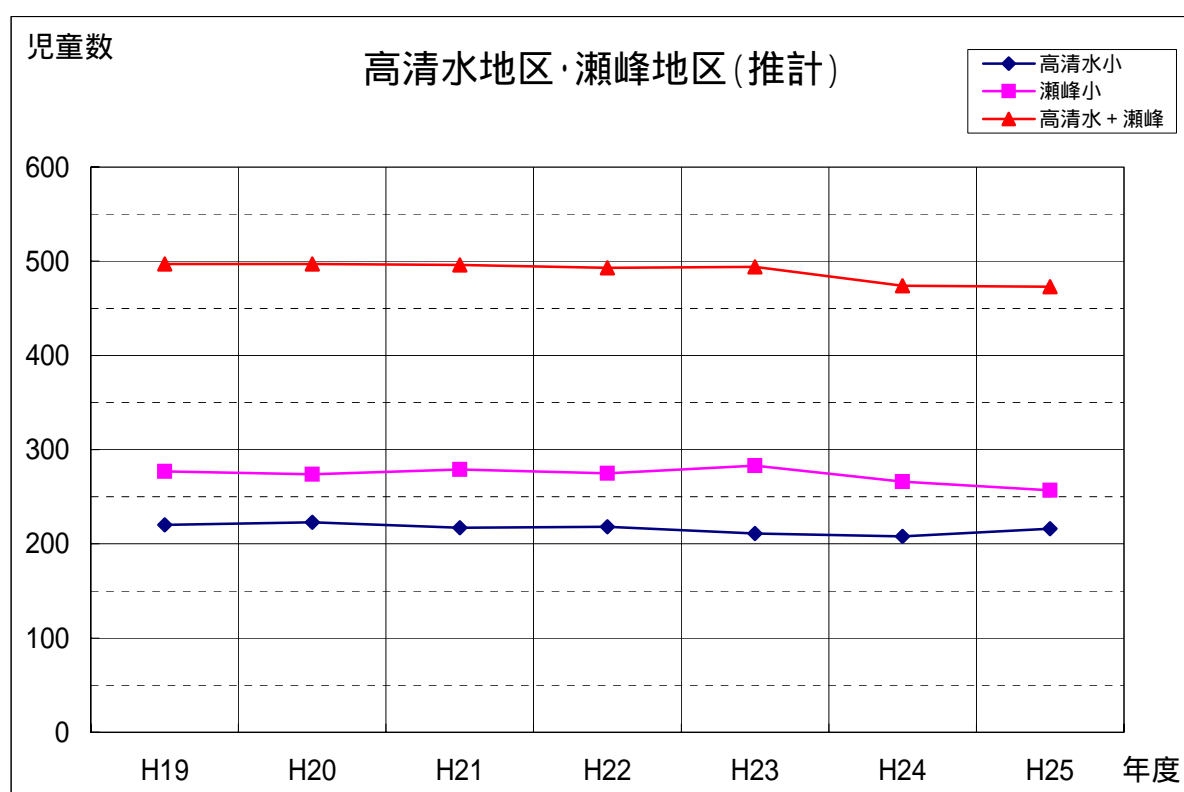
瀬 峰 小 （児童数 2 7 7 人，通常の学級数 1 1 学級）

【方法等】

- ・高清水小の将来推計からは，今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。
- ・瀬峰小の将来推計からは，35人標準学級とすると，今後単独で適正規模の基準をほぼ満たす可能性があります。
- ・両校は，それぞれが隣接校となります。
- ・構想の「4適正配置」で示したように，小学校は旧町村ごとに1校程度を配置することにしていきます。こうしたことから，それぞれの学校を現状のまま存続することが妥当と考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|----|-----------|------|------|----|----|----|----|----|--|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | 複式 学級 | 75条 学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | | |
| 高清水小 | | 35 | 34 | 35 | 39 | 37 | 38 | 218 | 2 | 220 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | 2 | 8 |
| 瀬峰小 | | 49 | 49 | 37 | 48 | 41 | 48 | 272 | 5 | 277 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 11 | | | 3 | 14 |
| 瀬峰 + 高清水 | 要の森 9.0 km | 84 | 83 | 72 | 87 | 78 | 86 | 490 | 7 | 497 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 18 | | | 3 | 21 |



大 目 小 （児童数 30人、通常の学級数 4学級）

【方法等】

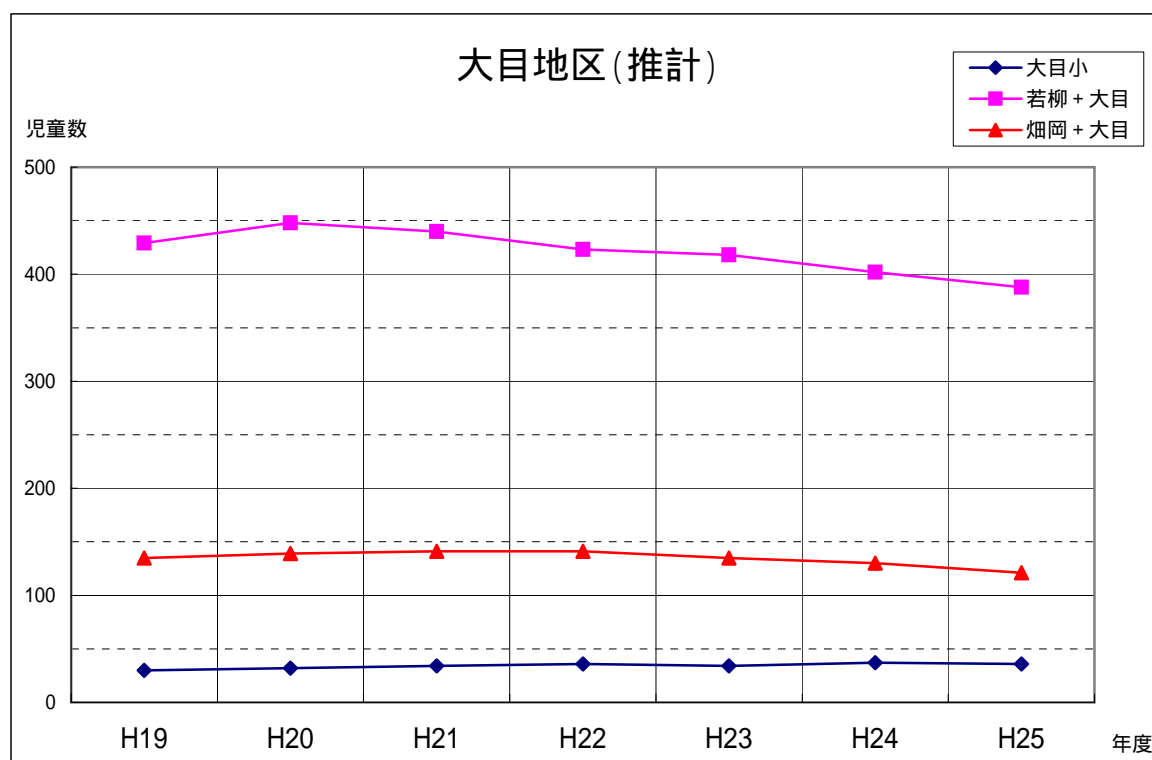
- ・将来推計からは、今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに複式学級の編制が今後も想定されます。
- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす若柳小と基準を満たさない畑岡小になります。
- ・地域環境の状況から、統合による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・若柳小との統合の場合は、適正規模の基準を満たします。しかし、畑岡小と統合しても基準を満たしません。
- ・こうしたことから、若柳小が統合の相手校として妥当と考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|----|-----------|------|------|----|----|----|----|----|---|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | 複式 学級 | 75条 学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | | |
| 大目小 | | 3 | 4 | 7 | 6 | 5 | 3 | 28 | 2 | 30 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 | 2 | 6 | | |
| 若柳+大目 | 川南南谷地 6.0 km | 62 | 70 | 72 | 81 | 84 | 56 | 425 | 4 | 429 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 2 | 15 | | 2 | 17 | |
| 畑岡+大目 | 川南下大目 5.3 km | 19 | 25 | 24 | 25 | 23 | 14 | 130 | 5 | 135 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 | | |



有賀小（児童数 82人、通常の学級数 6学級）

【方法等】

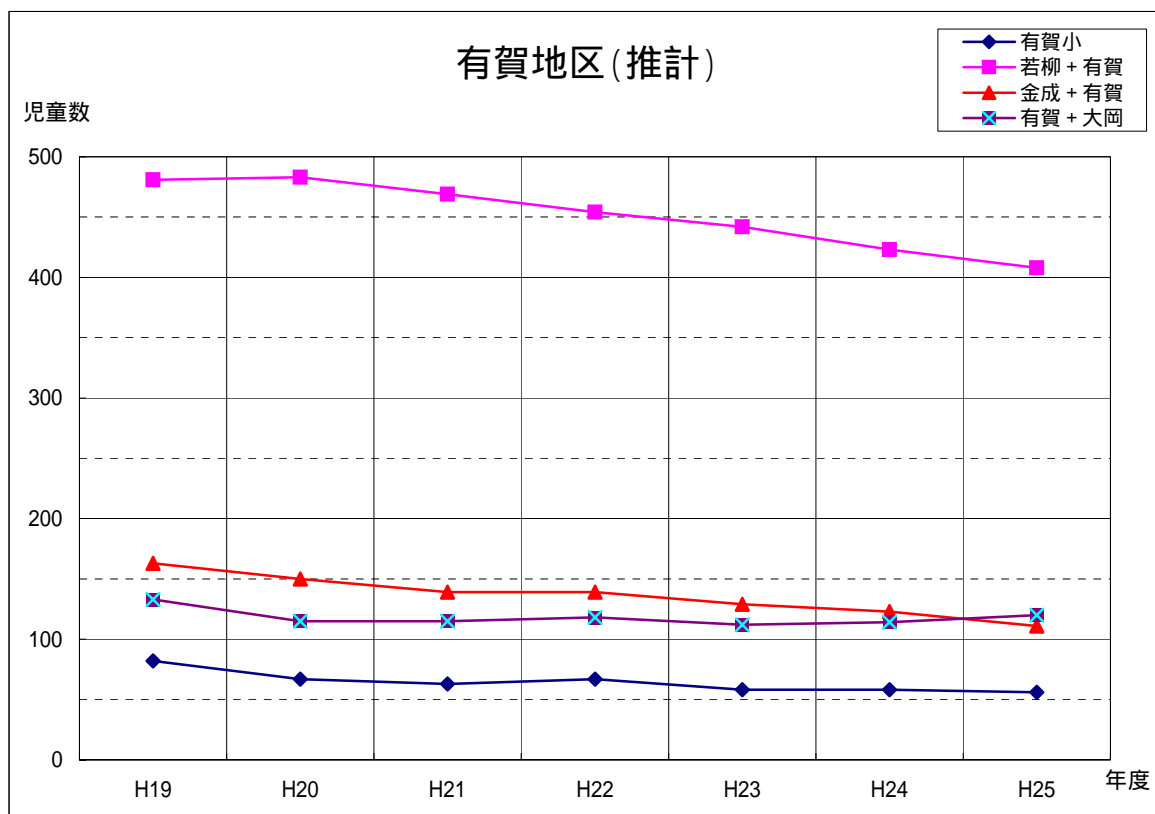
- ・将来推計からは、今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに今後は、学年規模が10人程度の極小規模校化が想定されます。
- ・隣接する3校のうち若柳小が適正規模の基準を満たしており、他の2校は適正規模の基準を満たしていません。
- ・東西及び北部に広がる地域形成の状況と通学距離の関係から単純な統合にはなじまないため、学区再編による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・若柳小は現在も適正規模の基準を満たしており、学区再編を行っても、適正規模の基準を満たすこととなります。
- ・金成地区小は、金成地区5校との統合・学区再編によって基準を満たすことが可能であると考えられます。金成地区小との学区再編によって、有賀小学区内には通学距離が緩和されることになる行政区があります。
- ・こうしたことから、若柳小と金成地区小を相手校とした学区再編が妥当と考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|-----------|-----|------|----|----|----|----|----|----|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | 複式 学級 | 75条 学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | |
| 有賀小 | | 11 | 11 | 14 | 11 | 11 | 21 | 79 | 3 | 82 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | 7 |
| 若柳+有賀 | 有賀新山 8.6 km | 70 | 77 | 79 | 86 | 90 | 74 | 476 | 5 | 481 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 17 | | 2 | 19 |
| 金成+有賀 | 武鎗磯田沢 7.0 km | 29 | 22 | 24 | 26 | 27 | 32 | 160 | 3 | 163 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | 7 |
| 有賀+大岡 | 大林町裏 4.5 km | 17 | 19 | 24 | 21 | 18 | 31 | 130 | 3 | 133 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | 7 |



大岡小（児童数 51人、通常の学級数 6学級）

【方法等】

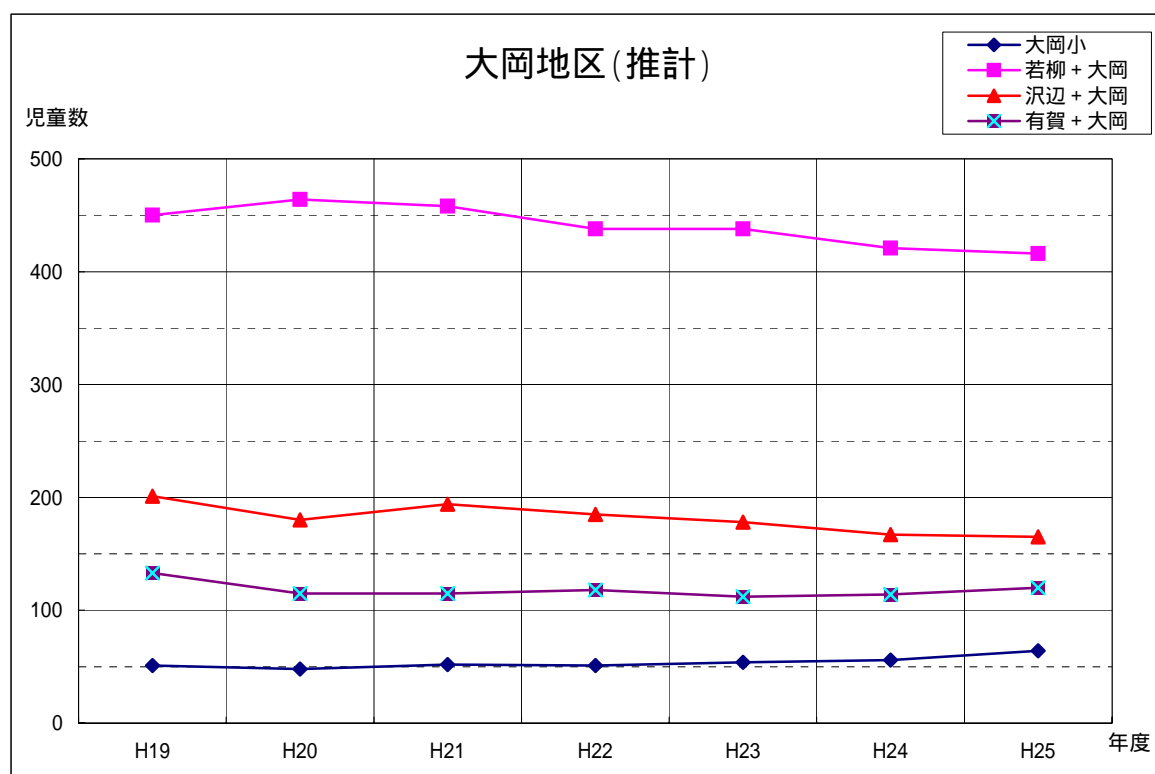
- ・将来推計からは、今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに今後は、複式学級の編制が想定されます。
- ・隣接する3校のうち若柳小が適正規模の基準を満たしており、他の2校は適正規模の基準を満たしていません。
- ・東西に広がる地域形成の状況と通学距離の関係から単純な統合にはなじまないため、学区再編による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・若柳小は現在も適正規模の基準を満たしており、学区再編を行っても、適正規模の基準を満たすこととなります。
- ・金成地区小は、金成地区5校との統合・学区再編によって基準を満たすことが可能であると考えられます。金成地区小との学区再編によって、大岡小学区内には通学距離が緩和されることになる行政区があります。
- ・こうしたことから、若柳小と金成地区小を相手校とした学区再編が妥当と考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|----|-------|------|------|----|----|----|----|----|----|--|------|-------|----|--|--|--|---|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 | | | | | |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | | | | | | | | |
| 大岡小 | | 6 | 8 | 10 | 10 | 7 | 10 | 51 | | | 51 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | | | | | 6 | |
| 若柳+大岡 | 大林町裏 5.9 km | 65 | 74 | 75 | 85 | 86 | 63 | 448 | 2 | | 450 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 16 | | | | | | | | 1 | 17 |
| 沢辺+大岡 | 福岡四ツ谷 7.2 km | 26 | 37 | 35 | 34 | 25 | 42 | 199 | 2 | | 201 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 8 | | | | | | | | 1 | 9 |
| 有賀+大岡 | 大林町裏 4.5 km | 17 | 19 | 24 | 21 | 18 | 31 | 130 | 3 | | 133 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | | | | | 1 | 7 |



畑 岡 小 （児童数 105 人，通常の学級数 6 学級）

【方法等】

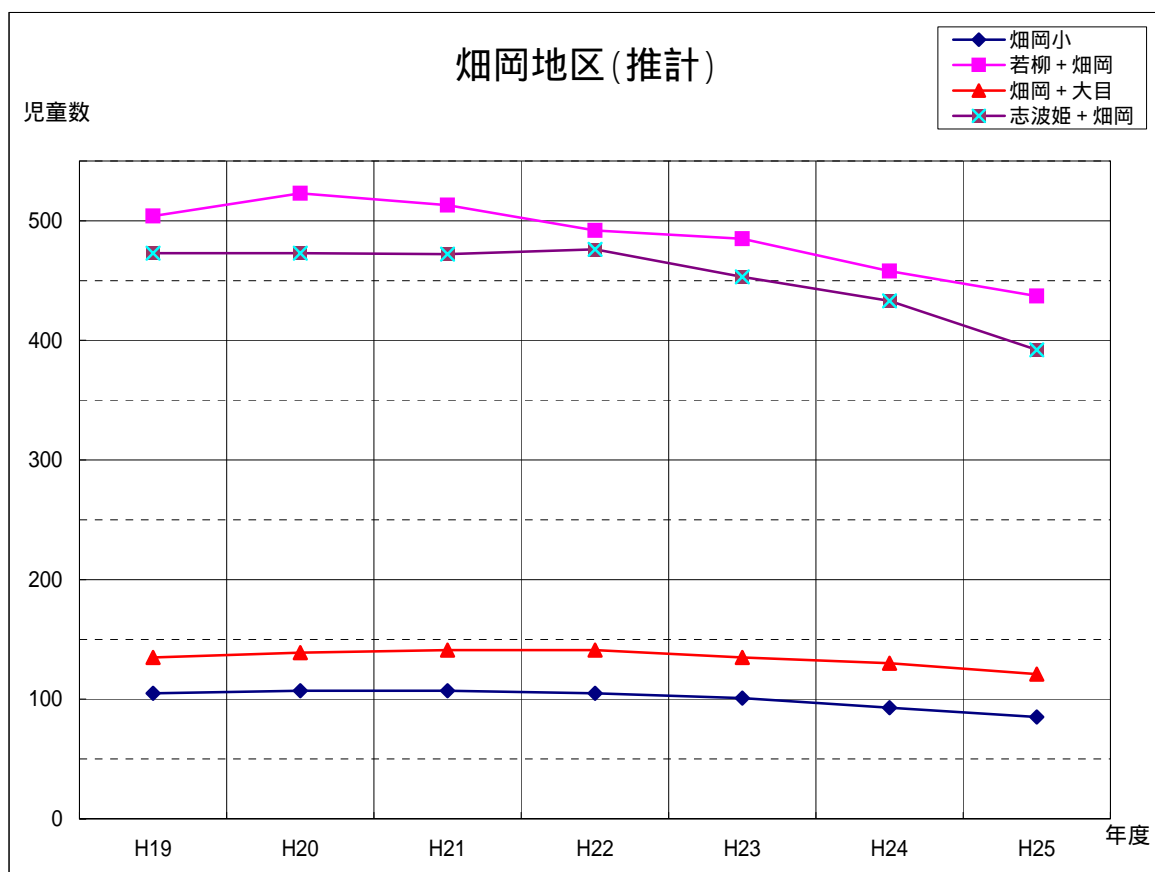
- ・将来推計からは，今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに平成 24 年度以降は，学年規模が 10 人程度の極小規模校化が想定されます。
- ・隣接する 3 校のうち，若柳小と志波姫小が適正規模の基準を満たしており，他の 1 校は適正規模の基準を満たしていません。
- ・北東部から西南部に広がる地域形成の状況と通学距離の関係から単純な統合にはなじまないため，学区再編による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・隣接する若柳小と志波姫小は現在も適正規模の基準を満たしており，学区再編を行っても，適正規模の基準を満たします。志波姫小との学区再編によって，畑岡小学校区内には通学距離が緩和されることになる行政区があります。
- ・こうしたことから，若柳小と志波姫小を相手校とした学区再編が妥当と考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|-------|-----|------|----|----|----|----|----|------|-------|----|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 | |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | | | | 小計 |
| 畑岡小 | | 16 | 21 | 17 | 19 | 18 | 11 | 102 | 3 | 105 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 |
| 若柳 + 畑岡 | 上畑岡横峯 9.8 km | 75 | 87 | 82 | 94 | 97 | 64 | 499 | 5 | 504 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 17 | | 2 | 19 |
| 畑岡 + 大目 | 川南下大目 5.3 km | 19 | 25 | 24 | 25 | 23 | 14 | 130 | 5 | 135 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 |
| 志波姫 + 畑岡 | 上畑岡大立 6.6 km | 80 | 85 | 85 | 69 | 77 | 67 | 463 | 10 | 473 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 16 | | 4 | 20 |



- 沢 辺 小 (児童数 150人, 通常の学級数 6学級)
- 金 成 小 (児童数 81人, 通常の学級数 6学級)
- 萩 野 小 (児童数 64人, 通常の学級数 6学級)
- 萩 野 第 二 小 (児童数 34人, 通常の学級数 4学級)
- 津 久 毛 小 (児童数 47人, 通常の学級数 5学級)

【方法等】

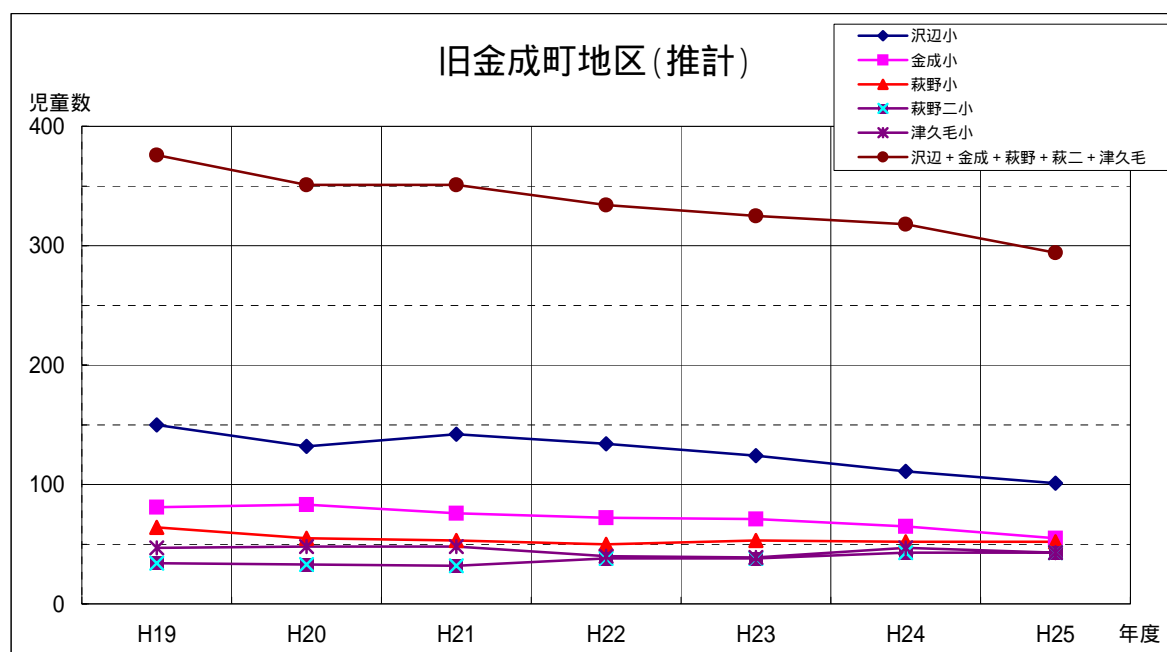
- ・将来推計からは、どの小学校も今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに、沢辺小を除く4校で、今後複式学級の編制が想定されます。
- ・こうしたことから、対象校5校の統合が妥当と考えられます。さらに他地区の小学校との統合・学区再編を総合的に見直すことが必要になるものと考えられます。

【相手校等】

- ・5校が統合した場合で、適正規模の基準を満たします。ただし、施設の現状から無理があるので、5校統合を目指した、施設整備を行う必要があります。
- ・区内5校の統合及び隣接する有賀小・大岡小などの学区再編を見込んだ施設整備を行い、平成25年度までに金成中との小中一貫校に移行していくことが妥当と考えます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|--|-----------|------|------|----|----|----|----|----|----|--|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | | 複式 学級 | 75条 学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | | |
| 沢辺小 | | 20 | 29 | 25 | 24 | 18 | 32 | 148 | | 2 | 150 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | 7 | |
| 金成小 | | 18 | 11 | 10 | 15 | 16 | 11 | 81 | | | 81 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | 6 | |
| 萩野小 | | 9 | 11 | 5 | 14 | 9 | 14 | 62 | | 2 | 64 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | 7 | |
| 萩野二小 | | 6 | 5 | 6 | 4 | 4 | 7 | 32 | | 2 | 34 | 1 | 1 | | 1 | | 1 | 4 | | 2 | 1 | |
| 津久毛小 | | 8 | 2 | 7 | 12 | 8 | 10 | 47 | | | 47 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 5 | | 1 | 5 | |
| 沢辺+金成+萩野+ 萩二+津久毛 | | 61 | 58 | 53 | 69 | 55 | 74 | 370 | | 6 | 376 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 13 | | 1 | 14 | |



- 岩ヶ崎小 (児童数 227人, 通常の学級数 9学級)
- 栗駒小 (児童数 65人, 通常の学級数 6学級)
- 栗駒小耕英分校 (児童数 3人, 通常の学級数 1学級)
- 鳥矢崎小 (児童数 71人, 通常の学級数 6学級)

【方法等】

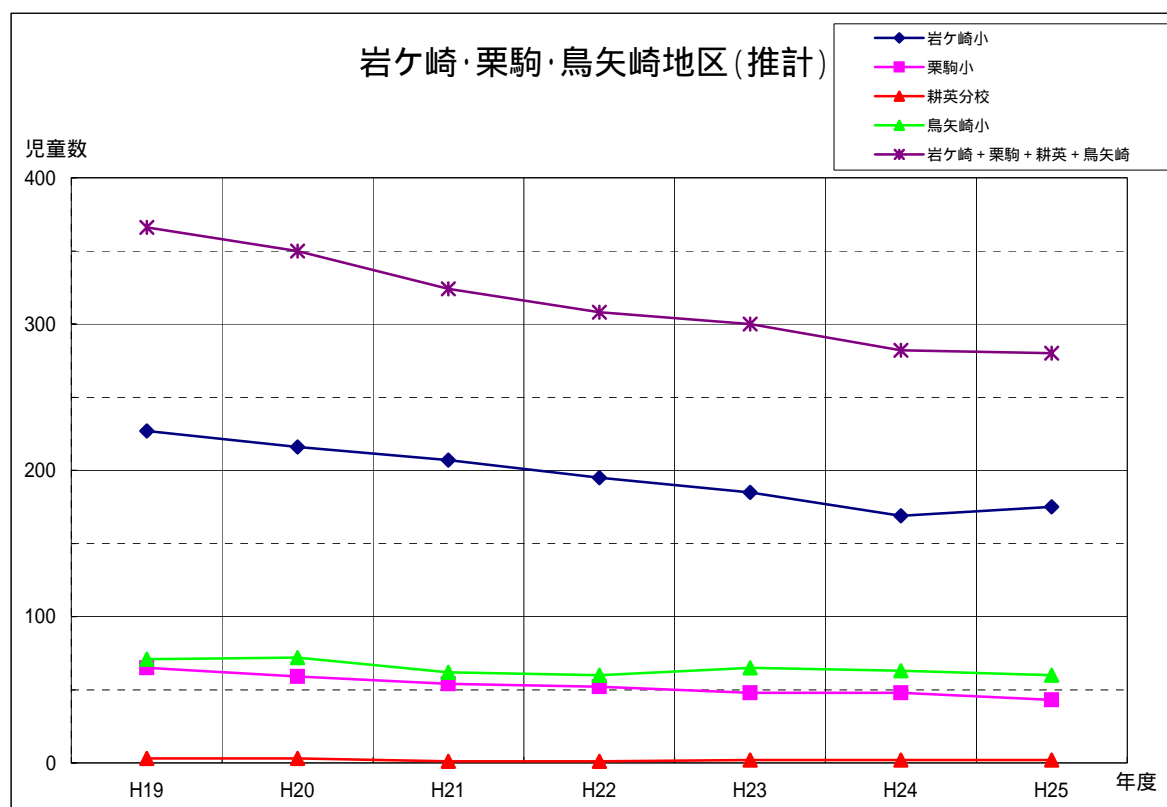
- ・将来推計からは、どの小学校も今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに、岩ヶ崎小を除く3校で、今後複式学級の編制が想定されます。
- ・こうしたことから、統合による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・4校が統合した場合で、適正規模の基準を満たします。
- ・隣接する尾松小を含めた統合の場合は施設整備を要することになります。さらに、尾松小の隣接校との関係があることから、4校による統合が妥当と考えます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|-------|-----|------|----|----|----|----|----|------|-------|----|----|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 | | |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | | | | 小計 | |
| 岩ヶ崎小 | | 24 | 40 | 40 | 41 | 38 | 42 | 225 | 2 | 227 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 9 | | | 1 | 10 |
| 栗駒小 | | 8 | 6 | 13 | 13 | 12 | 13 | 65 | | 65 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | 6 |
| 耕英分校 | | | | | | 2 | | 2 | 1 | 3 | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | 2 |
| 鳥矢崎小 | | 9 | 17 | 9 | 11 | 16 | 8 | 70 | 1 | 71 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | | 7 |
| 岩ヶ崎 + 栗駒 + 耕英 + 鳥矢崎 | 沼倉耕英中 23.9 km | 41 | 63 | 62 | 65 | 68 | 63 | 362 | 4 | 366 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 | | 2 | | 14 |



鶯 沢 小 (児童数 175人, 通常の学級数 6学級)

文 字 小 (児童数 55人, 通常の学級数 6学級)

【方法等】

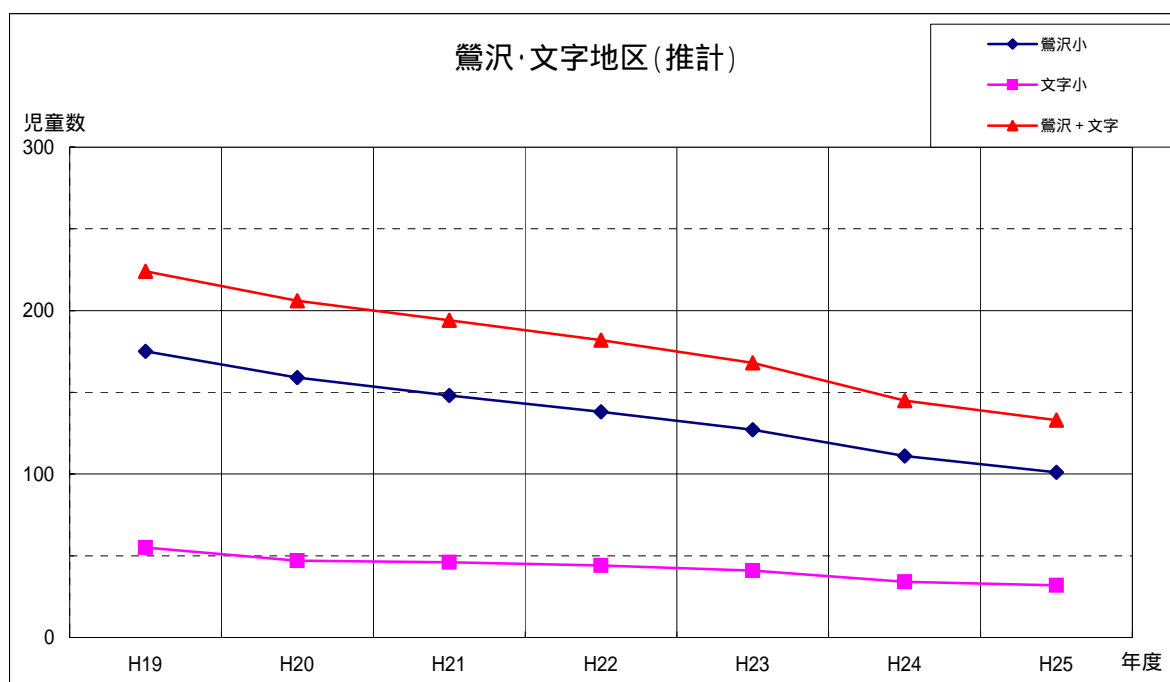
- ・将来推計からは、両校とも今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに、文字小で、今後複式学級の編制が想定されます。
- ・こうしたことから、統合による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・両校が統合した場合でも、平成24年度以降において適正規模の基準を満たしません。しかし、さらなる統合・学区再編をさまざまなケースで検討しても通学区域が広大になります。
- ・両校の統合は、施設の状況及び児童数などから鶯沢小学校の校舎を利用することが妥当と考えます。
- ・統合後に児童数の減少が想定されますが、構想の「4適正配置」で示したとおり、旧町村ごとに1校程度配置することになっていることから存続することとします。その上で、統合後においても児童数の推移を見守ることが必要であると考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|----|-------|------|------|----|----|----|----|----|------|-------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | |
| 鶯沢小 | | 27 | 32 | 26 | 20 | 32 | 34 | 171 | 4 | 175 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 |
| 文字小 | | 5 | 11 | 9 | 10 | 7 | 11 | 53 | 2 | 55 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 |
| 鶯沢+文字 | 文字荒砥沢 13.3km | 32 | 43 | 35 | 30 | 39 | 45 | 224 | 6 | 230 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 9 | | 2 | 11 |



尾 松 小 （児童数 162 人，通常の学級数 6 学級）

宝 来 小 （児童数 43 人，通常の学級数 5 学級）

【方法等】

・将来推計からは，両校とも今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに，宝来小で，今後も複式学級の編制が想定されます。

・こうしたことから，統合による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

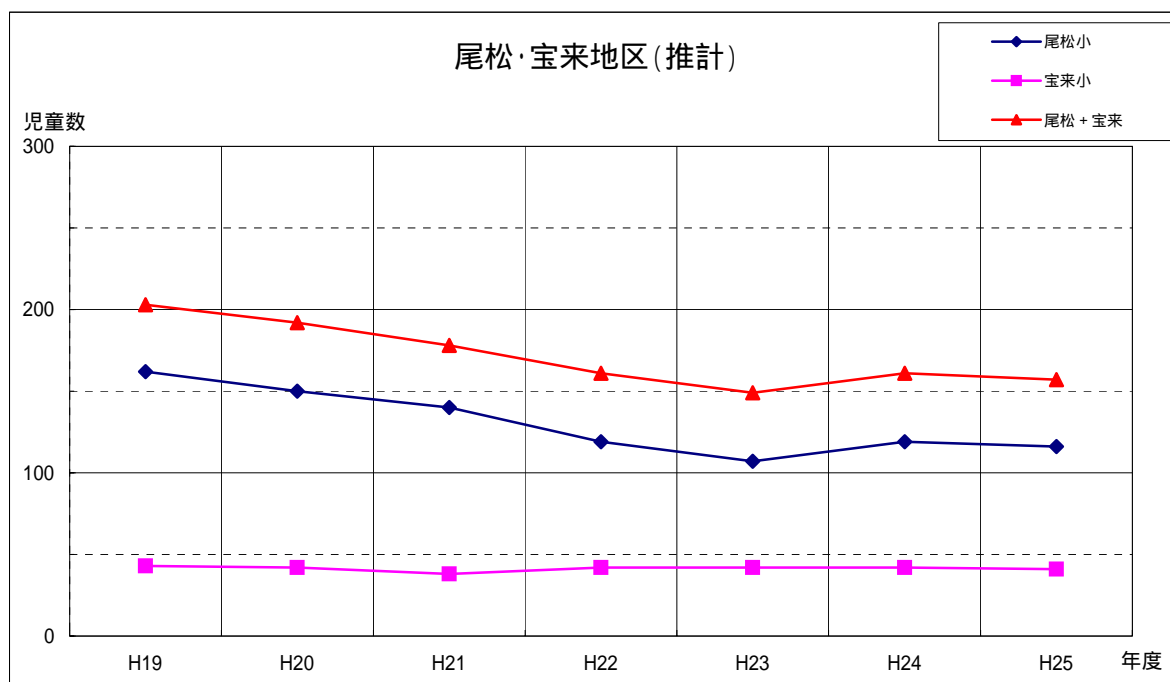
・両校が統合した場合でも，平成22年度以降において適正規模の基準を満たしません。しかし，さらなる統合・学区再編をさまざまなケースで検討しても現状では，隣接する他校との再編は施設上の無理があります。

・こうしたことから，両校での統合をすることとし，施設の状況及び児童数などから尾松小学校の校舎を利用することが妥当と考えます。

・ただし，統合後においても児童数の推移を見極め，さらなる学区再編によって適正規模の確保を具体的に検討していく必要があると考えられます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | | |
|-------|--------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|----|-----------|------|------|----|----|----|----|----|---|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | 複式 学級 | 75条 学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | | |
| 尾松小 | | 25 | 13 | 24 | 37 | 32 | 29 | 160 | 2 | 162 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 | |
| 宝来小 | | 6 | 7 | 6 | 8 | 8 | 8 | 43 | | 43 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | | 5 | |
| 尾松+宝来 | 片子沢猫ノ沢 5.6 km | 31 | 20 | 30 | 45 | 40 | 37 | 203 | 2 | 205 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 9 | | 2 | 11 | |



- 一 迫 小 (児童数 224人, 通常の学級数 7学級)
- 長 崎 小 (児童数 47人, 通常の学級数 5学級)
- 金 田 小 (児童数 80人, 通常の学級数 6学級)
- 姫 松 小 (児童数 52人, 通常の学級数 5学級)

【方法等】

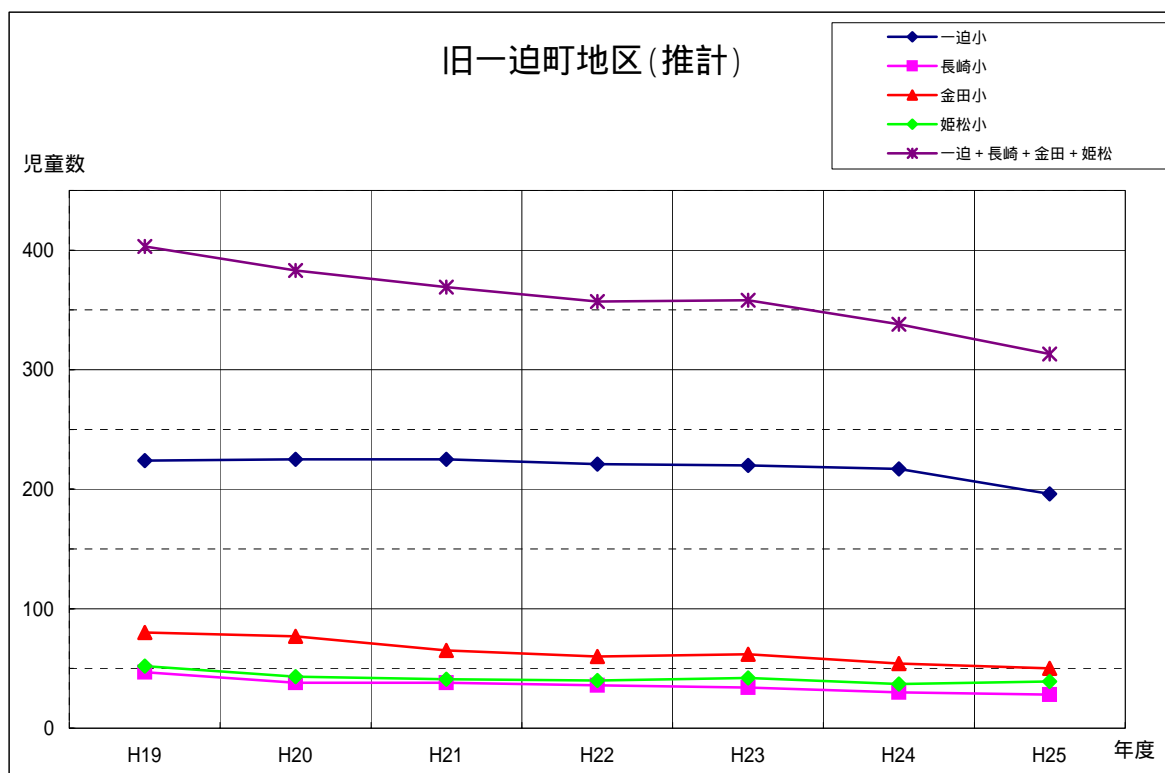
- ・将来推計からは、どの小学校も今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに、一迫小を除く3校で、今後複式学級の編制が想定されます。
- ・こうしたことから、対象校4校の統合による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・4校の統合の場合で、適正規模の基準を満たします。
- ・施設規模等を考慮すると、一迫小学校舎を利用することが妥当と考えます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|-----------|-----|------|----|----|----|----|----|----------|---------------|----|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | 複式 学級 | 75 条学 級 | 合計 | |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | | | | 小計 |
| 一迫小 | | 50 | 31 | 33 | 33 | 39 | 34 | 220 | 4 | 224 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 | | 2 | 9 |
| 長崎小 | | 8 | 7 | 7 | 6 | 3 | 16 | 47 | | 47 | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | | 5 |
| 金田小 | | 11 | 14 | 12 | 12 | 19 | 10 | 78 | 2 | 80 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 |
| 姫松小 | | 6 | 13 | 3 | 7 | 10 | 11 | 50 | 2 | 52 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 2 | 7 |
| 一迫+長崎+ 金田+姫松 | 上大土 11.0km | 75 | 65 | 55 | 58 | 71 | 71 | 395 | 8 | 403 | 3 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 15 | | 2 | 17 |



志波姫小（児童数368人、通常の学級数12学級）

【方法等】

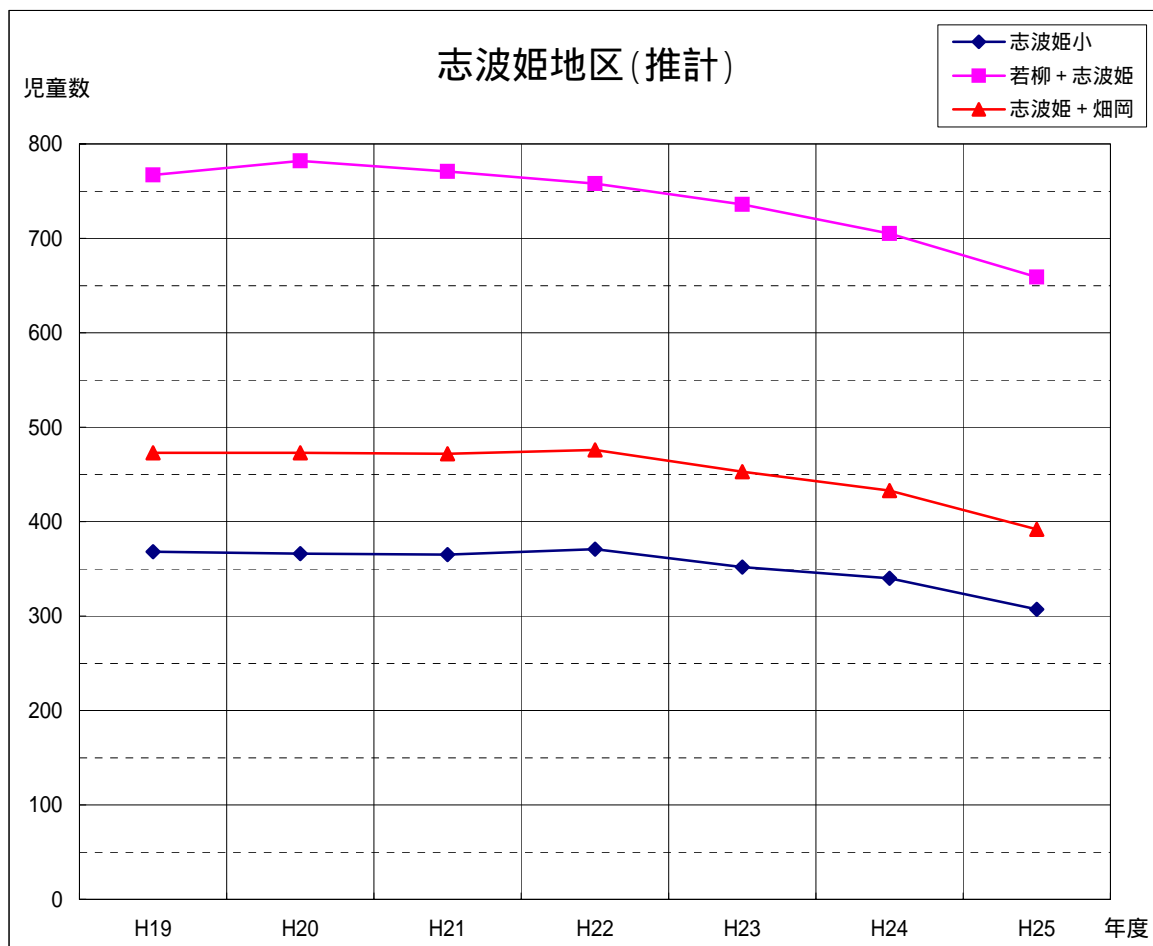
- ・将来推計からは、計画年度の最終で1学級編制となりますが、ほぼ適正規模の基準を満たします。
- ・隣接校のうち若柳小との統合の場合は、若柳小が他校との統合・学区再編の関係から学級数の上限を超えることが想定されます。
- ・国道398号線沿線及び水田地帯を挟んで南北に広がる地域形成の状況から現在校を活かしたうえで、他校との学区再編による適正規模の確保が妥当と考えられます。

【相手校等】

- ・畑岡小学校区内の通学距離が緩和される行政区を対象とした学区再編を行っても適正規模の基準を満たし、学級数の上限を超えないものと考えられます。
- ・こうしたことから、畑岡小との学区再編が妥当と考えられます。なお、施設規模から志波姫小学校の校舎を利用することが妥当であると考えます。

(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最速通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|------|----|----|----|----|----|----|------|-------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | |
| 志波姫小 | | 64 | 64 | 68 | 50 | 59 | 56 | 361 | 7 | 368 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 | | 4 | 16 |
| 若柳+志波姫 | - | 123 | 130 | 133 | 125 | 138 | 109 | 758 | 9 | 767 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 24 | | 4 | 28 |
| 志波姫+畑岡 | 上畑岡大立 6.6km | 80 | 85 | 85 | 69 | 77 | 67 | 463 | 10 | 473 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 16 | | 4 | 20 |



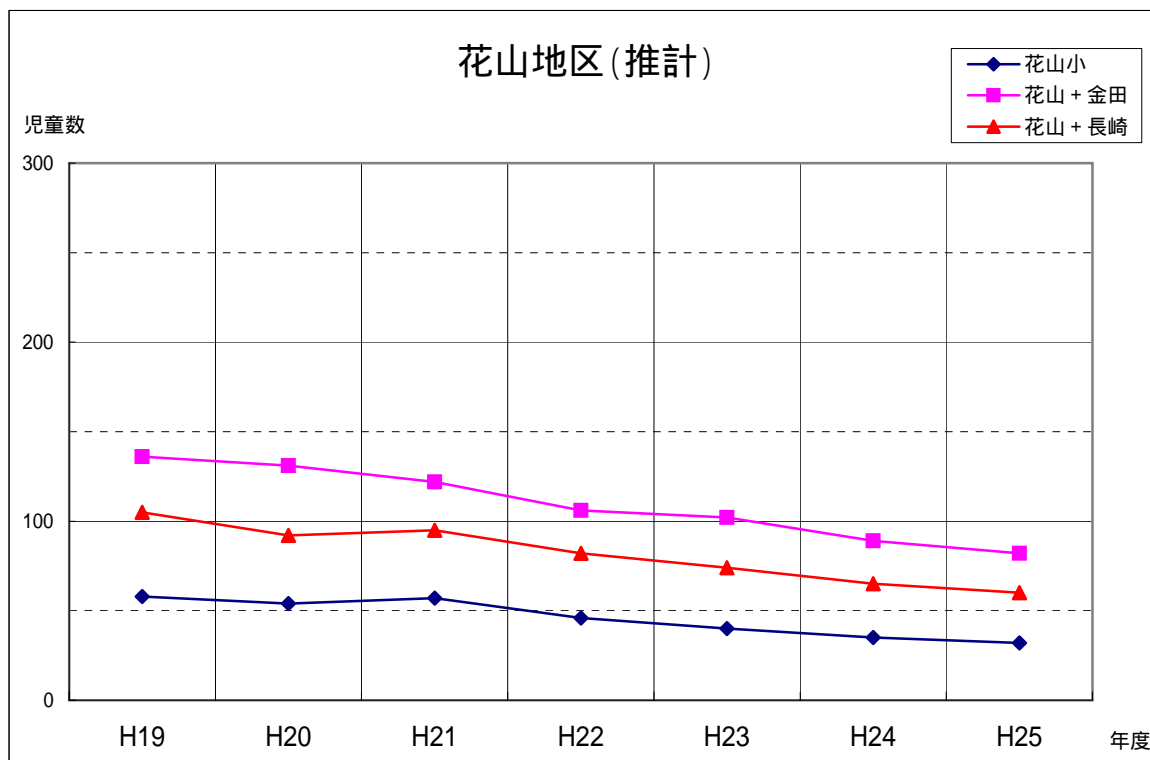
花 山 小 (児童数 60人, 通常の学級数 6学級)

【方法等】

- ・将来推計からは、今後単独で適正規模の基準を満たす児童数の増加は見込まれません。さらに複式学級の編制が今後、想定されます。
- ・隣接校は、いずれも適正規模の基準を満たしていません。
- ・通学距離の関係から、統合並びに学区再編による適正規模の確保が難しいと考えられます。
- ・構想の「4 適正配置」で示したように、小学校は旧町村ごとに1校程度を配置することになっています。こうしたことから、花山小学校は現状のまま存続することが妥当と考えられます。
- ・ただし、極小規模校化していくことが想定されるため、地域の自然環境を活かすなどの学校としての特色を發揮し、通学区域以外から一定数の児童を受け入れを可能とする「特認校制度⁷⁾」の導入なども考えられます。
- ・なお、特認校制度の導入などを行って、そのまま存続しても小規模校の状況が続くような場合は、一迫小との統合を視野に継続的に検討することが必要と考えます。

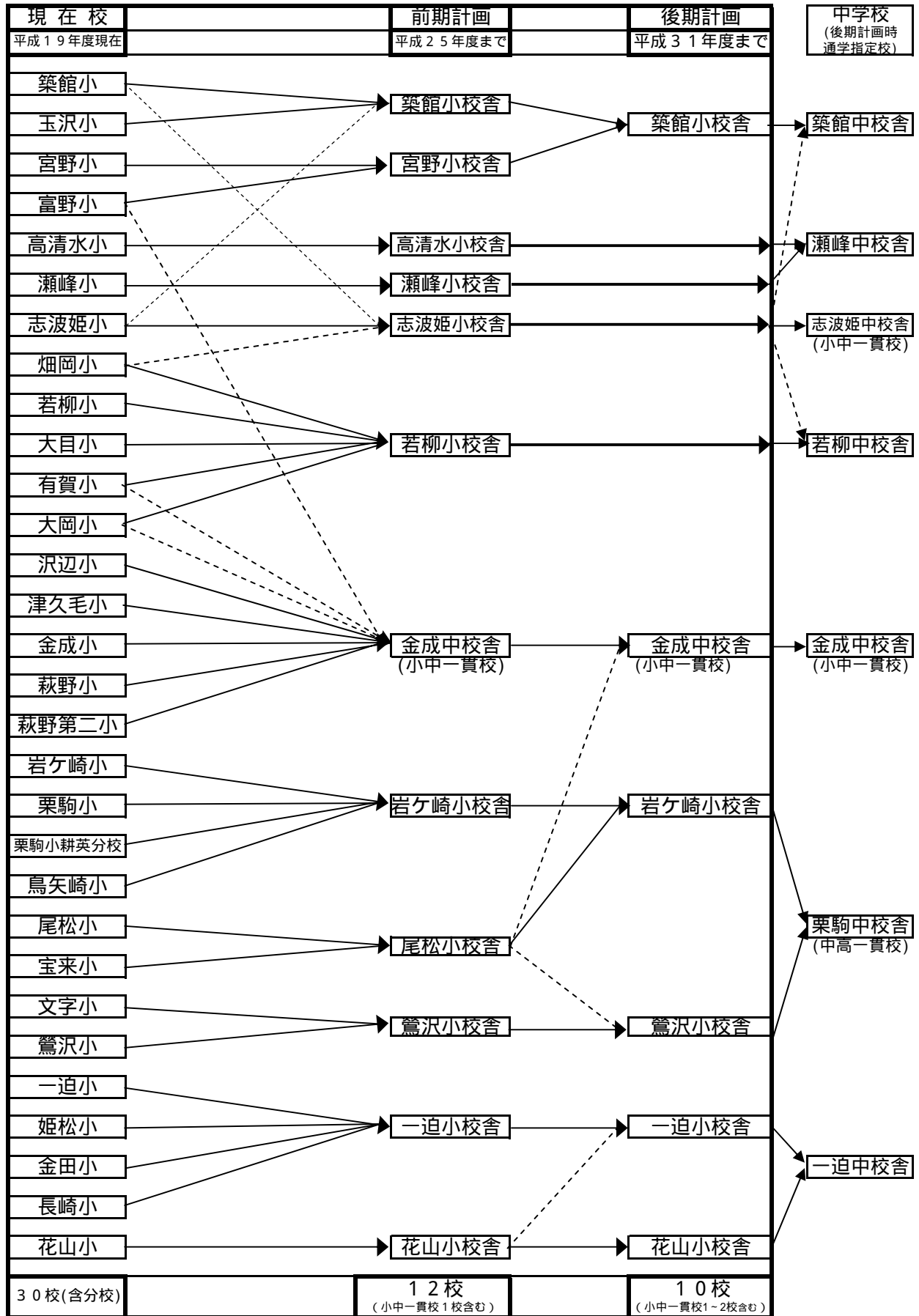
(H19.5.1現在)

| 小学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 児童数 | | | | | | | | | 実学級数 | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|-------|-----|------|----|----|----|----|----|------|-------|----|----|
| | | 通常の学級 | | | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 | |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 小計 | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | | | | 小計 |
| 花山小 | | 7 | 12 | 11 | 13 | 7 | 8 | 58 | 2 | 60 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 1 | 7 |
| 花山+金田 | 嶋躰堰場 11.4 km | 18 | 26 | 23 | 25 | 26 | 18 | 136 | 4 | 140 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 |
| 花山+長崎 | 上大土 7.6 km | 15 | 19 | 18 | 19 | 10 | 24 | 105 | 2 | 107 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | 2 | 8 |



7) 特認校制度は、従来の通学区域は残したままで、特定の学校において、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度です。

【総括表：小学校】



再編後の学校名は別に検討するので、使用する校舎名で表記しています。

実線は、計画が示す統合学区再編の組合せを示しています。

の破線は、両地区での話し合いで、通学の利便が図れることなどの合意によって、学区再編の余地を残しています。

の破線は、学区での話し合いによって、学区再編の希望があれば、柔軟に対応していきます。

の破線は、学区再編を想定しており、対象となる行政区の皆さまとの話し合いによって、決定していきます。

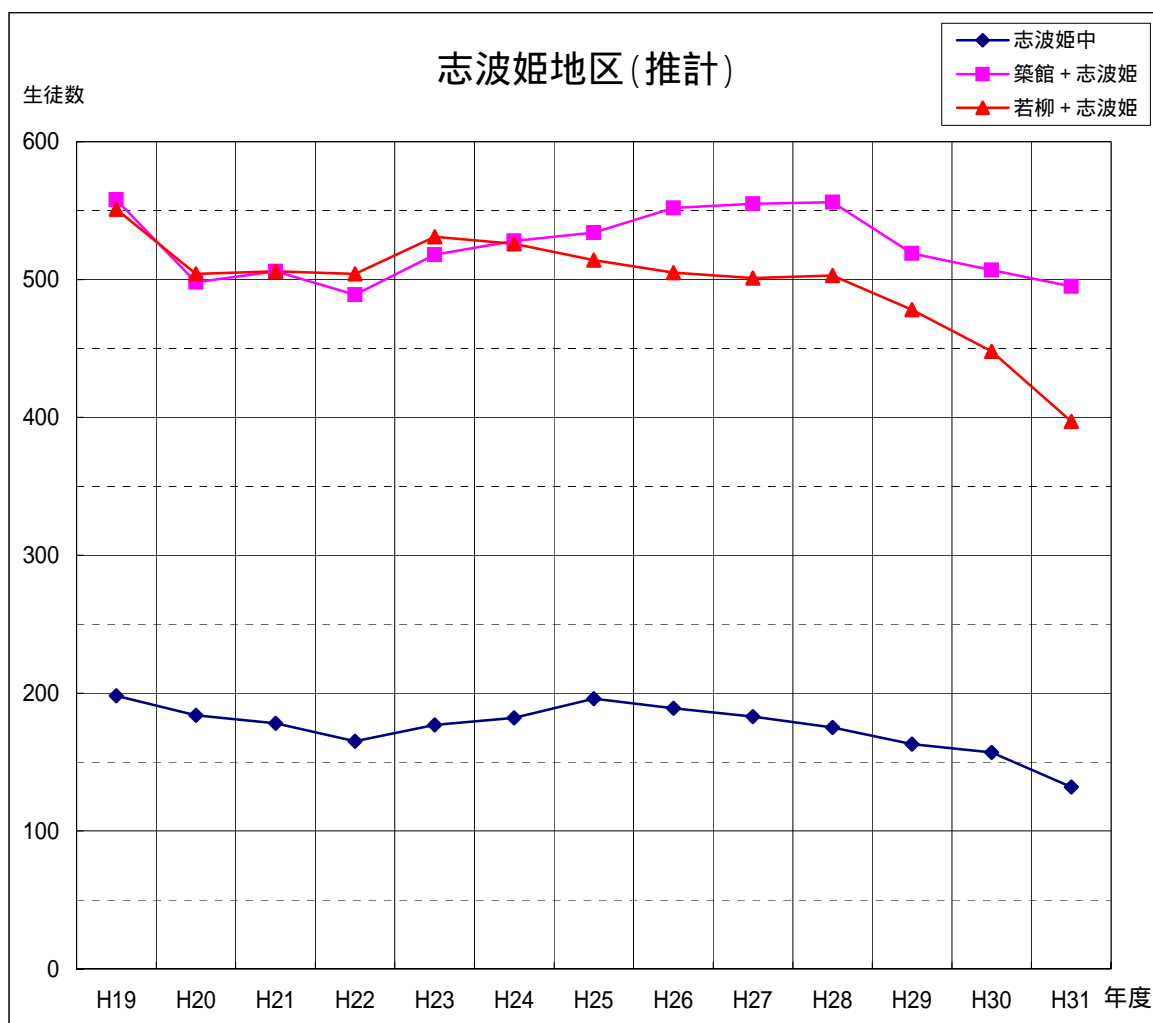
志波姫中（生徒数198人、通常の学級数 6学級）

【方法等】

- ・将来推計からは、今後単独で適正規模の基準を満たしません。
- ・隣接校との統合を行った場合、いずれも学級数の上限を超えることが想定されます。
- ・学区内のくりこま高原駅周辺の宅地化が緩やかに進行していることから、生徒数の動向を見守る必要があると考えます。こうしたことから、現状のままで生徒数の動向を見守ることとします。
- ・ただし、生徒数が増加傾向を示し、各学年で2学級確保が見込める場合は、小中一貫校（連携型）の創設も考えられます。一方、生徒数の増加が見込めない場合は、隣接する築館中、若柳中への学区再編による適正規模の確保が妥当と考えられます。

(H19.5.1現在)

| 中学校 | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 生徒数 | | | | | | 実学級数 | | | | | | | |
|----------|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|------|--------|--------|--------|--|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | 複式 学級 | 75条 学級 | 合計 |
| | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 小 計 | 1 年 | | | 2 年 | 3 年 | 小 計 | | | | |
| 志波姫中 | | 63 | 65 | 66 | 194 | 4 | 198 | 2 | 2 | 2 | 6 | | 2 | 8 | |
| 築館 + 志波姫 | 伊豆野芝の脇 前 10.7 km | 188 | 164 | 198 | 550 | 8 | 558 | 6 | 5 | 6 | 17 | | 3 | 20 | |
| 若柳 + 志波姫 | 堀口宮中 11.2 km | 173 | 177 | 190 | 540 | 11 | 551 | 5 | 6 | 6 | 17 | | 3 | 20 | |



高 清 水 中 （生徒数 116人，通常の学級数 4学級）

瀬 峰 中 （生徒数 113人，通常の学級数 4学級）

【方法等】

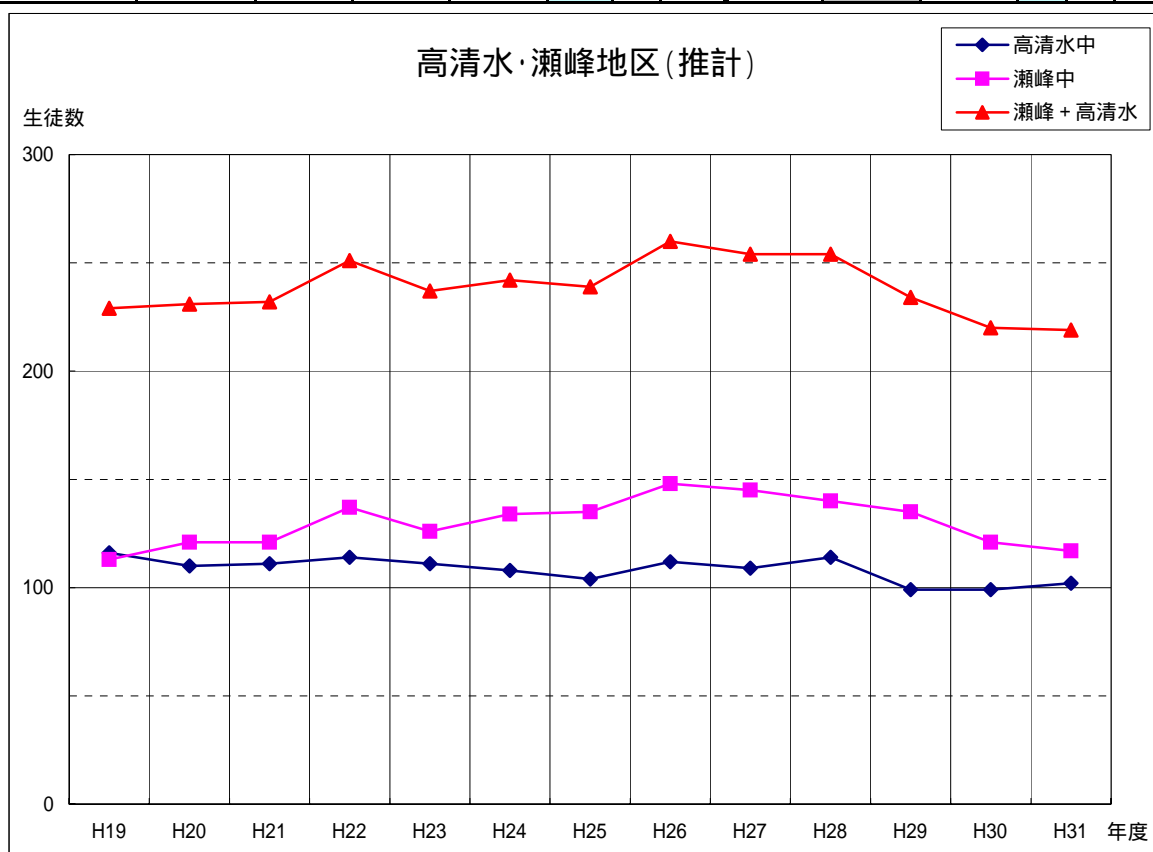
- ・将来推計で高清水中は，今後単独で適正規模の基準を満たしません。
- ・将来推計で瀬峰中は，ほぼ2学級を維持するものの，今後単独で適正規模の基準を満たしません。
- ・ただし，両校ともに35人標準学級編制で推計すると，学年複数学級がある程度出現することや，企業誘致による人口変動への影響など，今後の生徒数の推移を見守る必要があると考えます。
- ・こうしたことから，当面，生徒数の推移を見守りながら，両校の統合について継続的に検討していくこととします。

【相手校等】

- ・隣接する両校の統合によって，適正規模の基準を満たします。
- ・こうしたことから，隣接する両校による統合が妥当と考えられますが，【方法等】で示したとおり，当面は生徒数の動向を見守ることとします。
- ・また，学級編制基準など国の制度改正によっては，小中一貫校の創設も考えられます。

(H19.5.1現在)

| 中学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最速 通学距離 (km) | 生徒数 | | | | | | 実学級数 | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------|----|----|-----|-----------|-----|------|----|----|----|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | 複式 学級 | 75 条学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 小計 | | | 1年 | 2年 | 3年 | 小計 | | | |
| 高清水中 | | 36 | 36 | 42 | 114 | 2 | 116 | 1 | 1 | 2 | 4 | | 2 | 6 |
| 瀬峰中 | | 32 | 41 | 40 | 113 | | 113 | 1 | 2 | 1 | 4 | | | 4 |
| 瀬峰+高清水 | 要の森 9.4km | 68 | 77 | 82 | 227 | 2 | 229 | 2 | 3 | 3 | 8 | | 2 | 10 |



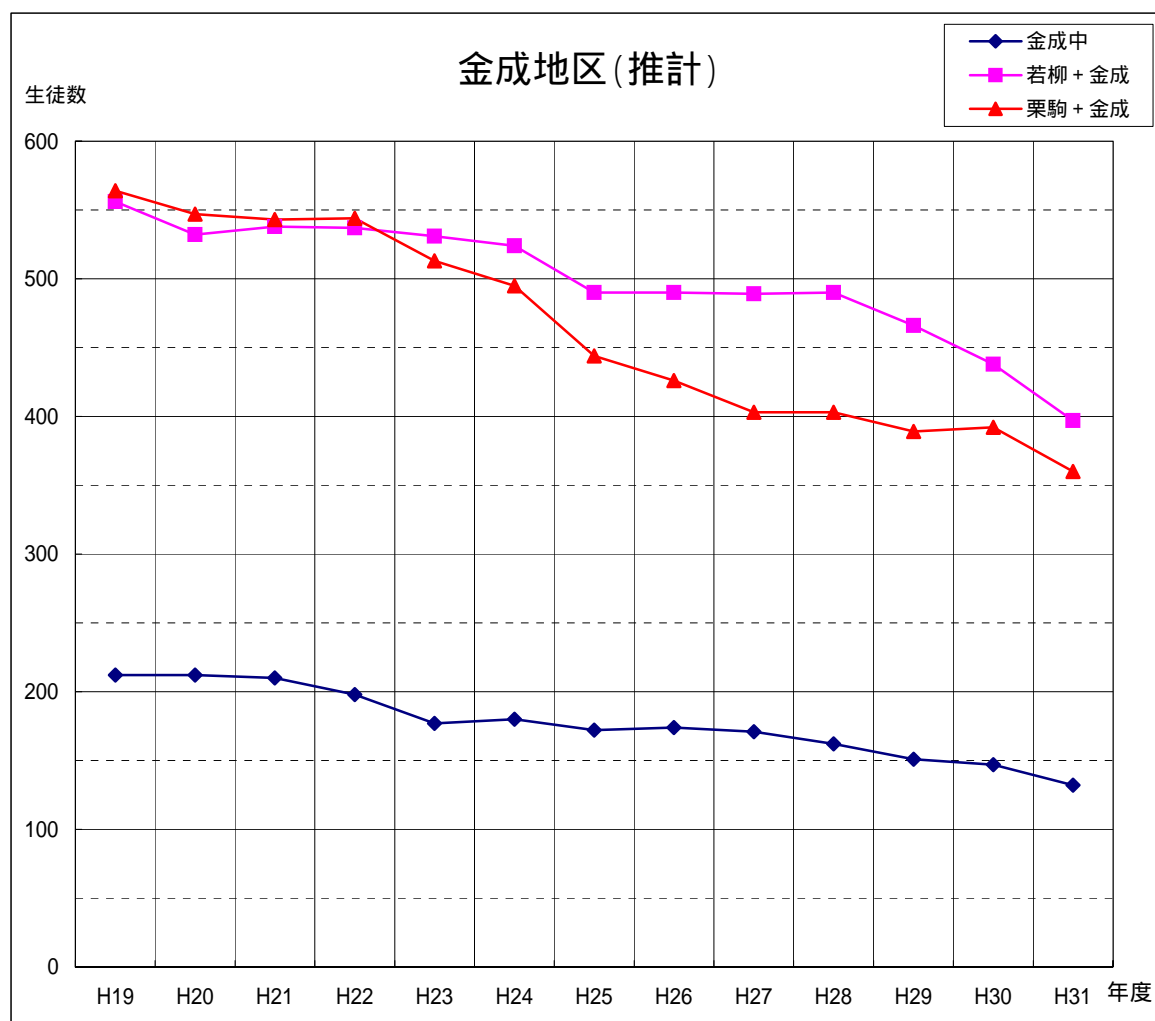
金 成 中 （生徒数 212 人，通常の学級数 7 学級）

【方法等】

- ・将来推計からは，2 学級は維持するものの，今後単独で適正規模の基準を満たしません。
- ・隣接する 2 校は，今後も単独で適正規模の基準を満たします。
- ・こうしたことから，学区再編による適正規模の確保が考えられます。
- ・ただし，行政区を単位とした学区再編のさまざまなケースを想定しても，地区内の北部では，通学距離が長くなるとともに，地勢的に見ても不自然な学区となります。
- ・金成地区の 5 小学校の統合及び有賀小・大岡小などからの学区再編を考慮すると，今後も各学年で，2 学級を維持することから小中一貫校の創設によって教科担任の確保を目指す，再編が妥当であると考えます。

(H19.5.1現在)

| 中学校 | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 生徒数 | | | | | | 実学級数 | | | | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----|-----|-----|----|-------|------|------|----|----|--|------|-------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 小計 | | | | |
| 金成中 | | 81 | 57 | 72 | 210 | 2 | 212 | 3 | 2 | 2 | 7 | | 2 | 9 | |
| 若柳+金成 | 普賢堂苗代沢 20.4 km | 191 | 169 | 196 | 556 | 9 | 565 | 6 | 5 | 6 | 17 | | 2 | 19 | |
| 栗駒+金成 | 有壁熊口 19.4 km | 188 | 174 | 202 | 564 | 5 | 569 | 6 | 5 | 6 | 17 | | 3 | 20 | |



鶯 沢 中 （生徒数 77人、通常の学級数 3学級）

【方法等】

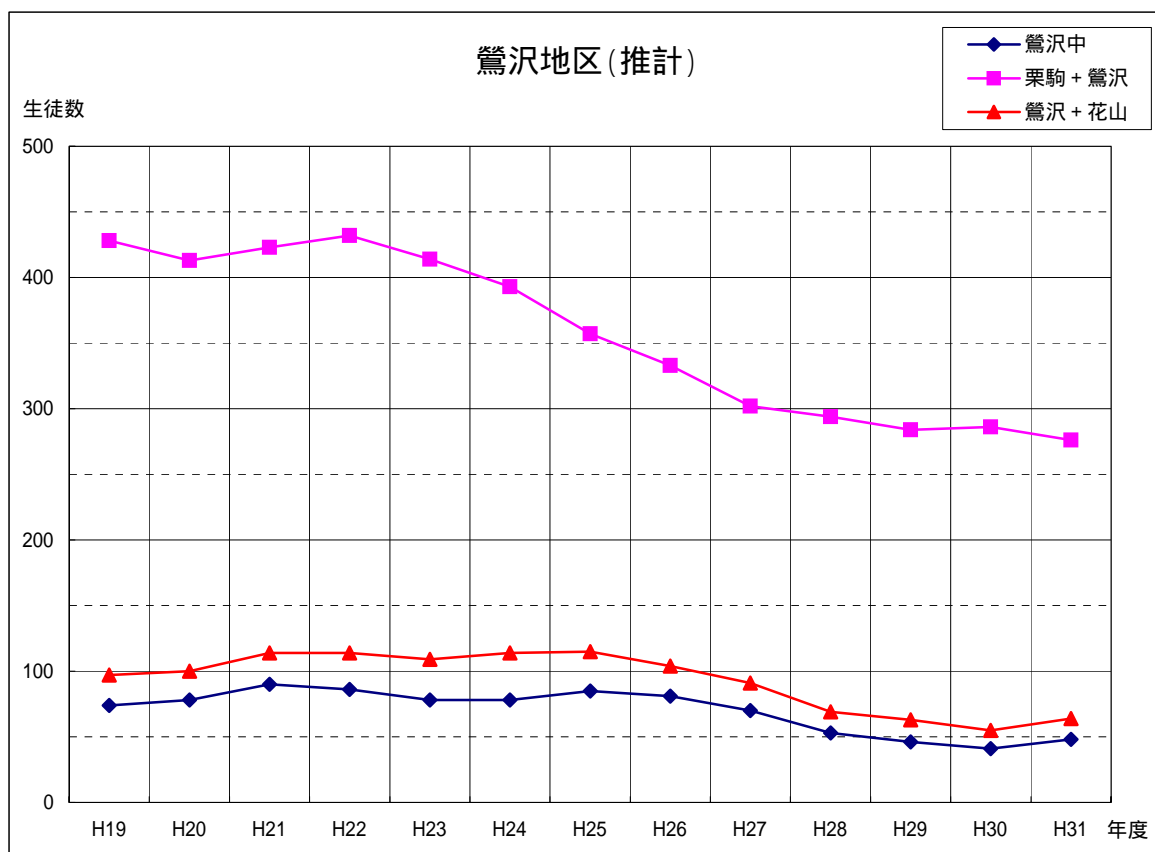
- ・将来推計からは、今後単独で適正規模の基準を満たしません。
- ・隣接する栗駒中は、適正規模の基準を満たしています。花山中は、適正規模の基準を満たしていません。
- ・こうしたことから、統合による適正規模の確保が考えられます。

【相手校等】

- ・栗駒中との統合の場合、今後とも適正規模の基準を維持できます。しかし、花山中との統合の場合、適正規模の基準を満たすことができません。
- ・こうしたことから、栗駒中との統合による、適正規模の確保が妥当と考えます。
- ・ただし、栗駒中との統合後において、数年後から急激に生徒数が減少することが想定されますが、通学距離などを考慮すると、さらなる統合・学区再編が困難となります。
- ・この状況から、隣接する岩ヶ崎高校との中高一貫（併設または連携）校を創設し、学校としての魅力を高め一定数の生徒を確保することが妥当と考えます。

(H19.5.1現在)

| 中学校 | 隣接校までの最遠通学距離 (km) | 生徒数 | | | | | | 実学級数 | | | | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----|-----|-----|----|-------|------|------|----|----|--|------|-------|----|
| | | 通常の学級 | | | | | 75条小計 | 合計 | 単式学級 | | | | 複式学級 | 75条学級 | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 小計 | 1年 | | | 2年 | 3年 | 小計 | | | | |
| 鶯沢中 | | 24 | 20 | 30 | 74 | 3 | 77 | 1 | 1 | 1 | 3 | | | 2 | 5 |
| 栗駒+鶯沢 | 南郷四ツ岩 11.3km | 131 | 137 | 160 | 428 | 6 | 434 | 4 | 4 | 5 | 13 | | | 3 | 16 |
| 鶯沢+花山 | 草木沢上原 19.5km | 33 | 25 | 39 | 97 | 5 | 102 | 1 | 1 | 2 | 4 | | | 2 | 6 |



- 一 迫 中 (生徒数 204人, 通常の学級数 6学級)
- 花 山 中 (生徒数 25人, 通常の学級数 3学級)

【方法等】

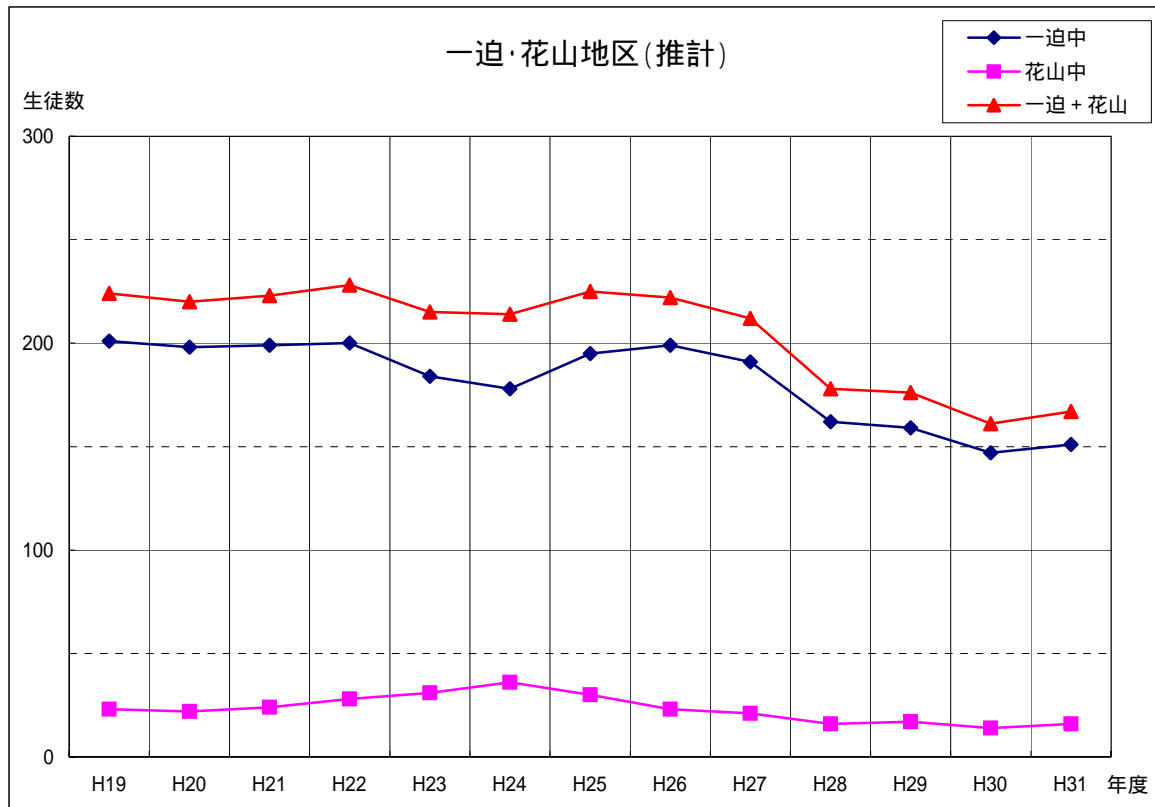
- ・将来推計からは、両校ともに今後単独で適正規模の基準を満たしません。
- ・こうしたことから、統合による適正規模の確保が考えられます。

【相手校等】

- ・両校が統合した場合、適正規模がほぼ確保でき、妥当と考えます。
- ・施設規模などを考慮すると、一迫中の校舎を利用することが妥当と考えます。
- ・統合後において、数年後から単学年で2学級編制となり、適正規模の基準を満たさなくなることが想定されます。
- ・ただし、通学距離などを考慮すると、さらなる統合・学区再編が困難となります。そのため、統合後の中学校をそのまま存続させ、生徒数の動向を見守ることが必要と考えます。

(H19.5.1現在)

| 中学校 上段：現状 下段：仮組合せ | 隣接校までの最遠 通学距離 (km) | 生徒数 | | | | | | 実学級数 | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|--------|--------|--------|-----|-----------|-----|--------|--------|--------|----|----------|-----------|----|
| | | 通常の学級 | | | | 75条 小計 | 合計 | 単式学級 | | | | 複式 学級 | 75 条学級 | 合計 |
| | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 小計 | | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 小計 | | | |
| 一迫中 | | 57 | 71 | 74 | 202 | 2 | 204 | 2 | 2 | 2 | 6 | | 1 | 7 |
| 花山中 | | 9 | 5 | 9 | 23 | 2 | 25 | 1 | 1 | 1 | 3 | | 1 | 4 |
| 一迫+花山 | 本沢浅布 18.4km | 66 | 76 | 83 | 225 | 4 | 229 | 2 | 3 | 3 | 8 | | 1 | 9 |



【総括表：中学校】

| 現在校 | 前期計画 | 後期計画 |
|----------|--------------------------|------------------------------|
| 平成19年度現在 | 平成25年度まで | 平成31年度まで |
| 高清水中 | 高清水中校舎 | 高清水中校舎 瀨峰中校舎 |
| 瀨峰中 | 瀨峰中校舎 | 瀨峰中校舎 |
| 築館中 | 築館中校舎 | 築館中校舎 |
| 志波姫中 | 志波姫中校舎 | 志波姫中校舎 (小中一貫校) |
| 若柳中 | 若柳中校舎 | 若柳中校舎 |
| 金成中 | 金成中校舎 (小中一貫校) | |
| 栗駒中 | 栗駒中校舎 (中高一貫校) | |
| 鷺沢中 | | |
| 一迫中 | 一迫中校舎 | |
| 花山中 | | |
| 10校 | 8校 (小中一貫1校, 中高一貫1校含む) | 6~8校 (小中一貫1~2校, 中高一貫1校含む) |

再編後の学校名は別に検討するので、使用する校舎名で表記しています。

実線は、計画が示す統合学区再編の組合せを示しています。

の破線は、両地区での話し合いで、通学の利便が図れることなどの合意によって、学区再編の余地を残しています。

の破線は、学区での話し合いによって、学区再編の希望があれば、柔軟に対応していきます。

の破線は、学区再編を想定しており、対象とする行政区の皆さまとの話し合いによって、決定していきます。

【総括表：幼稚園】

幼稚園の再編計画の視点

- 各地区の幼児数の推移
- 小学校再編計画との整合を図る
- 私立幼稚園と共存していくことを考慮した配置
- 小中学校の再編計画の結果としての空き校舎の有効活用
- 通園バス等の効率運行を考慮した配置

| 現在の幼稚園 | | 前期計画（～H25） | 後期計画（～H31） | |
|----------|-------------------------------|--|--|----------------------|
| 施設 | 保育年数 | 幼稚園名等・施設整備計画等 | 幼稚園名等 施設整備計画等 | |
| 築館幼稚園 | 1 | 築館幼稚園舎 1 | (仮称) 築館地区幼稚園 <3年保育> 現有施設の利 用又は新設を検 討 | |
| 玉沢幼稚園 | 1 | | | |
| 宮野幼稚園 | 1 | | | |
| 富野幼稚園 | 1 | | | |
| 宮野幼稚園 | 1 | 宮野幼稚園舎 1 | (仮称) 若柳地区幼稚園 <3年保育> 現有施設の利 用又は新設を検 討 | |
| 聖マリア幼稚園 | 3 | 聖マリア幼稚園 3 | | 聖マリア幼稚園 公設民営などの検討・協議 |
| 若柳幼稚園 | 1 | 若柳幼稚園舎 1 | | |
| 有賀幼稚園 | 1 | | | |
| 大岡幼稚園 | 1 | | | |
| 畑岡幼稚園 | 1 | | | |
| よしの幼稚園 | 3 | よしの幼稚園 3 | よしの幼稚園 公設民営などの検討・協議 | |
| 金成幼稚園 | 3 | 金成幼稚園 | 現在の幼保一元化 の取組みを継続 | |
| 岩ヶ崎幼稚園 | 2 | (仮称) 栗駒地区幼稚園 <3年保育> 岩ヶ崎地区に幼 保一元化施設とし て新築 | | |
| 鳥矢崎幼稚園 | 2 | | | |
| 栗駒幼稚園 | 2 | | | |
| 尾松幼稚園 | 2 | | | |
| 宝来幼稚園 | 2 | (仮称) 鶯沢文字幼稚園 <3年保育> 鶯沢保育所隣 接地に増築して 幼保一元化 | | |
| 文字幼稚園 | 2 | | | |
| 鶯沢幼稚園 | 2 | | | |
| 高清水幼稚園 | 2 | 高清水幼稚園 <3年保育> | 現在の幼保一元化施設で 幼稚園3歳児の受入れ | |
| 一迫幼稚園 | 2 | 一迫幼稚園舎 2 | (仮称)一迫地区幼稚園 <3年保育> 現有施設の利用 または新設を検討 | |
| 金田幼稚園 | 2 | (仮称)瀨峰幼稚園 <3年保育> 旧築館高瀨峰校を 改装して幼保一元化 | | |
| 瀨峰幼稚園 | 2 | | | |
| ふたば幼稚園 | 3 | ふたば幼稚園 | 現在のまま幼稚園の取組みを継続 | |
| 花山幼稚園 | 3 | 花山幼稚園 3 | 花山幼稚園 現在の施設に増築して幼保一元化 | |
| 公立 2 2 園 | 3年保育5園, 2年保育11園, 1年保育8園 | 公立 1 1 園 | 公立 1 0 園 | |
| 私立 2 園 | | 私立 2 園 | 私立 2 園 | |

再編後の幼稚園名は別に検討するので、使用する仮称で表記しています。
 実線は、計画が示す再編の組合せを示しています。
 破線は、小学校の再編と同様の考え方で、話し合いの推移をみながら、小学校区と同じ通園区域に設定していきます。

5 推 進 日 程

| 年度 | | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H31 |
|------------------|------------------------|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 検 討 委 員 会 | 検討委員会設置 | H18.3 | | | | | | | | | | |
| | 検討委員会審議 | H18.3~ H19.9 | | | | | | | | | | |
| | 中間報告(案) パブリックコメント | H19.2 | | | | | | | | | | |
| | 中間報告 | H19.4 | | | | | | | | | | |
| | 最終報告 | H19.9 | | | | | | | | | | |
| | 教育委員会検討 | H19.9~11 | | | | | | | | | | |
| | 学校再編計画(案) パブリックコメント | H19.12 | | | | | | | | | | |
| | 学校再編計画公表 | H20.3 | | | | | | | | | | |
| 栗原市立学校再編計画 | | 栗原市立学校再編計画<再編構想> | | | | | | | | | | |
| 前 期 計 画 | 前期計画に向けた地域での話し合い | H20.3~ H24.3 | | | | | | | | | | |
| | 再編に向けた準備期間 | 合意から1~2年 | | | | | | | | | | |
| | 学校再編の目標 | 準備期間後に実施 | | | | | | | | | | |
| 35人を標準とする学級編制の実施 | | 再編後の学校 | | | | | | | | | | |
| 後 期 計 画 | 後期計画の見直し | H24.4~ H25.3 | | | | | | | | | | |
| | 後期計画に向けた地域での話し合い | H25.4~ | | | | | | | | | | |
| | 再編に向けた準備期間 | 合意から1~2年 | | | | | | | | | | |
| | 学校再編の目標 | 準備期間後に実施 | | | | | | | | | | |

前期計画に向けた地域での話し合い：小学校区を単位として、学校再編計画の説明を行い、十分に時間をかけて話し合いを重ね、合意形成を図ります。
 再編実施の準備期間：地域での話し合いを重ね合意形成の後に、児童生徒の交流・合同授業等の実施、対象校同士の教育課程の調整及び再編後の校名・校章・校歌等の検討 等々
 学校再編の目標：話し合い・合意形成・準備期間を経て、再編後の学校としてスタートします。
 上記の . . . は、後期計画においても同様に進めます。

参 考 資 料

| | |
|----------------------------|--------|
| 現在の小学校での学年別児童数・学級数・学級規模の推移 | ・・・ 37 |
| 現在の中学校での学年別生徒数・学級数・学級規模の推移 | ・・・ 38 |
| 栗原市立学校再編計画〈前期計画〉時の教職員配置の推計 | ・・・ 39 |
| 市内小・中学校施設の状況 | ・・・ 40 |

現在の小学校での学年別 児童数・学級数・学級規模の推移

3.5人を標準とする学級編制に基づいた「学級数」と「学級規模」を試算しています。

| 出生年度 | | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 |
|---------|----------|--------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学校名 | 入学年次 | 平成19年度通常学級編制状況 H19.5.1現在 | | | | | | | | | | | |
| | 学年・年齢 | 小6年 | 小5年 | 小4年 | 小3年 | 小2年 | 小1年 | 5歳児 | 4歳児 | 3歳児 | 2歳児 | 1歳児 | 0歳児 |
| 築館小学校 | 児童数 | 60 | 74 | 69 | 67 | 84 | 61 | 75 | 68 | 73 | 70 | 63 | 78 |
| | 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | 2 | 3 |
| | 学級規模 | 30 | 37 | 35 | 34 | 28 | 31 | 25 | 34 | 25 | 35 | 32 | 26 |
| 玉沢小学校 | 児童数 | 5 | 21 | 17 | 17 | 7 | 22 | 16 | 21 | 13 | 10 | 18 | 11 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 5 | 21 | 17 | 17 | 7 | 22 | 16 | 21 | 13 | 10 | 18 | 11 |
| 宮野小学校 | 児童数 | 17 | 15 | 23 | 20 | 18 | 24 | 30 | 27 | 31 | 22 | 30 | 41 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| | 学級規模 | 17 | 15 | 23 | 20 | 18 | 24 | 30 | 27 | 31 | 22 | 30 | 21 |
| 富野小学校 | 児童数 | 8 | 3 | 12 | 3 | 9 | 6 | 11 | 11 | 5 | 5 | 10 | 5 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 8 | 3 | 12 | 3 | 9 | 6 | 11 | 11 | 5 | 5 | 10 | 5 |
| 若柳小学校 | 児童数 | 53 | 79 | 75 | 65 | 66 | 59 | 72 | 69 | 56 | 62 | 47 | 46 |
| | 学級数 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 学級規模 | 27 | 40 | 25 | 33 | 33 | 30 | 24 | 35 | 28 | 31 | 24 | 23 |
| 大目小学校 | 児童数 | 3 | 5 | 6 | 7 | 4 | 3 | 7 | 7 | 8 | 5 | 7 | 2 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 3 | 5 | 6 | 7 | 4 | 3 | 7 | 7 | 8 | 5 | 7 | 2 |
| 有賀小学校 | 児童数 | 21 | 11 | 11 | 14 | 11 | 11 | 9 | 7 | 15 | 5 | 11 | 9 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 21 | 11 | 11 | 14 | 11 | 11 | 9 | 7 | 15 | 5 | 11 | 9 |
| 大岡小学校 | 児童数 | 10 | 7 | 10 | 10 | 8 | 6 | 7 | 11 | 9 | 13 | 10 | 14 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 10 | 7 | 10 | 10 | 8 | 6 | 7 | 11 | 9 | 13 | 10 | 14 |
| 畑岡小学校 | 児童数 | 11 | 18 | 19 | 17 | 21 | 16 | 16 | 18 | 17 | 13 | 13 | 8 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 11 | 18 | 19 | 17 | 21 | 16 | 16 | 18 | 17 | 13 | 13 | 8 |
| 岩ヶ崎小学校 | 児童数 | 42 | 38 | 41 | 40 | 40 | 24 | 33 | 29 | 29 | 30 | 24 | 30 |
| | 学級数 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 21 | 38 | 21 | 20 | 20 | 24 | 33 | 29 | 29 | 30 | 24 | 30 |
| 尾松小学校 | 児童数 | 29 | 32 | 37 | 24 | 13 | 25 | 19 | 22 | 16 | 12 | 25 | 22 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 29 | 32 | 19 | 24 | 13 | 25 | 19 | 22 | 16 | 12 | 25 | 22 |
| 文字小学校 | 児童数 | 11 | 7 | 10 | 9 | 11 | 5 | 5 | 6 | 8 | 6 | 4 | 3 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 11 | 7 | 10 | 9 | 11 | 5 | 5 | 6 | 8 | 6 | 4 | 3 |
| 栗駒小学校 | 児童数 | 13 | 12 | 13 | 13 | 6 | 8 | 7 | 7 | 11 | 9 | 6 | 3 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 13 | 12 | 13 | 13 | 6 | 8 | 7 | 7 | 11 | 9 | 6 | 3 |
| 栗駒小耕英分校 | 児童数 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| | 学級数 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| | 学級規模 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 宝来小学校 | 児童数 | 8 | 8 | 8 | 6 | 7 | 6 | 7 | 4 | 12 | 6 | 7 | 5 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 8 | 8 | 8 | 6 | 7 | 6 | 7 | 4 | 12 | 6 | 7 | 5 |
| 鳥矢崎小学校 | 児童数 | 8 | 16 | 11 | 9 | 17 | 9 | 10 | 6 | 9 | 14 | 15 | 6 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 8 | 16 | 11 | 9 | 17 | 9 | 10 | 6 | 9 | 14 | 15 | 6 |
| 高清水小学校 | 児童数 | 38 | 37 | 39 | 35 | 34 | 35 | 43 | 31 | 40 | 28 | 31 | 43 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| | 学級規模 | 38 | 37 | 20 | 35 | 34 | 35 | 22 | 31 | 20 | 28 | 31 | 22 |
| 一迫小学校 | 児童数 | 34 | 39 | 33 | 33 | 31 | 50 | 39 | 39 | 29 | 32 | 28 | 29 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 34 | 39 | 33 | 33 | 31 | 25 | 20 | 20 | 29 | 32 | 28 | 29 |
| 姫松小学校 | 児童数 | 11 | 10 | 7 | 3 | 13 | 6 | 4 | 8 | 6 | 5 | 8 | 8 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 11 | 10 | 7 | 3 | 13 | 6 | 4 | 8 | 6 | 5 | 8 | 8 |
| 金田小学校 | 児童数 | 10 | 19 | 12 | 12 | 14 | 11 | 9 | 7 | 7 | 14 | 6 | 7 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 10 | 19 | 12 | 12 | 14 | 11 | 9 | 7 | 7 | 14 | 6 | 7 |
| 長崎小学校 | 児童数 | 16 | 3 | 6 | 7 | 7 | 8 | 7 | 3 | 4 | 5 | 3 | 6 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 16 | 3 | 6 | 7 | 7 | 8 | 7 | 3 | 4 | 5 | 3 | 6 |
| 瀬峰小学校 | 児童数 | 48 | 41 | 48 | 37 | 49 | 49 | 50 | 46 | 44 | 45 | 32 | 40 |
| | 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 |
| | 学級規模 | 24 | 21 | 24 | 19 | 25 | 25 | 25 | 23 | 22 | 23 | 32 | 20 |
| 鶯沢小学校 | 児童数 | 34 | 32 | 20 | 26 | 32 | 27 | 22 | 21 | 10 | 15 | 16 | 17 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 34 | 32 | 20 | 26 | 32 | 27 | 22 | 21 | 10 | 15 | 16 | 17 |
| 沢辺小学校 | 児童数 | 32 | 18 | 24 | 25 | 29 | 20 | 16 | 28 | 16 | 15 | 16 | 10 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 32 | 18 | 24 | 25 | 29 | 20 | 16 | 28 | 16 | 15 | 16 | 10 |
| 金成小学校 | 児童数 | 11 | 16 | 15 | 10 | 11 | 18 | 13 | 9 | 11 | 9 | 5 | 8 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 11 | 16 | 15 | 10 | 11 | 18 | 13 | 9 | 11 | 9 | 5 | 8 |
| 萩野小学校 | 児童数 | 14 | 9 | 14 | 5 | 11 | 9 | 7 | 7 | 11 | 8 | 10 | 9 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 14 | 9 | 14 | 5 | 11 | 9 | 7 | 7 | 11 | 8 | 10 | 9 |
| 萩野第二小学校 | 児童数 | 7 | 4 | 4 | 6 | 5 | 6 | 8 | 3 | 10 | 6 | 10 | 6 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 7 | 4 | 4 | 6 | 5 | 6 | 8 | 3 | 10 | 6 | 10 | 6 |
| 津久毛小学校 | 児童数 | 10 | 8 | 12 | 7 | 2 | 8 | 11 | 8 | 4 | 6 | 10 | 4 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 10 | 8 | 12 | 7 | 2 | 8 | 11 | 8 | 4 | 6 | 10 | 4 |
| 志波姫小学校 | 児童数 | 56 | 59 | 50 | 68 | 64 | 64 | 61 | 58 | 56 | 49 | 52 | 31 |
| | 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 |
| | 学級規模 | 28 | 30 | 25 | 34 | 32 | 32 | 31 | 29 | 28 | 25 | 26 | 31 |
| 花山小学校 | 児童数 | 8 | 7 | 13 | 11 | 12 | 7 | 4 | 10 | 2 | 5 | 7 | 4 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 学級規模 | 8 | 7 | 13 | 11 | 12 | 7 | 4 | 10 | 2 | 5 | 7 | 4 |
| 市内合計 | 児童数 A | 628 | 650 | 659 | 606 | 636 | 603 | 618 | 591 | 563 | 525 | 524 | 505 |
| | 学級数 B | 16 | 17 | 37 | 30 | 32 | 30 | 37 | 34 | 36 | 34 | 32 | 35 |
| | 学級規模 A/B | 40 | 39 | 18 | 20 | 20 | 20 | 17 | 17 | 16 | 15 | 16 | 14 |

表中の ← → は、複式学級の編制が想定される学年を示しています。
未就学児は、平成19年4月20日現在で学区内に居住する乳幼児数で推計しています。

現在の中学校での学年別 生徒数・学級数・学級規模の推移

3.5人を標準とする学級編制に基づいた「学級数」と「学級規模」を試算しています。

| 学校名 | 平成19年度通常学級編制状況 | | | | | | | | | | H19.5.1現在 | | | | | | | | | |
|----------|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 |
| 学年・年齢 | 中3年 | 中2年 | 中1年 | 小6年 | 小5年 | 小4年 | 小3年 | 小2年 | 小1年 | 5歳児 | 4歳児 | 3歳児 | 2歳児 | 1歳児 | 4歳児 | 3歳児 | 2歳児 | 1歳児 | 0歳児 | |
| 築館中学校 | 132 | 99 | 125 | 90 | 113 | 121 | 107 | 118 | 113 | 132 | 127 | 122 | 107 | 121 | 127 | 122 | 107 | 121 | 135 | |
| 学級数 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| 学級規模 | 33 | 33 | 32 | 30 | 29 | 31 | 27 | 30 | 29 | 33 | 32 | 31 | 27 | 31 | 32 | 31 | 27 | 31 | 34 | |
| 若柳中学校 | 124 | 112 | 110 | 98 | 120 | 121 | 113 | 110 | 95 | 111 | 112 | 105 | 98 | 88 | 112 | 105 | 98 | 88 | 79 | |
| 学級数 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 学級規模 | 31 | 38 | 28 | 33 | 30 | 31 | 29 | 28 | 32 | 28 | 28 | 35 | 33 | 30 | 28 | 33 | 33 | 30 | 27 | |
| 栗駒中学校 | 130 | 117 | 107 | 111 | 115 | 120 | 101 | 94 | 77 | 81 | 74 | 86 | 78 | 81 | 74 | 86 | 78 | 81 | 69 | |
| 学級数 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | |
| 学級規模 | 33 | 39 | 27 | 28 | 29 | 30 | 34 | 32 | 26 | 27 | 25 | 29 | 26 | 27 | 25 | 29 | 26 | 27 | 35 | |
| 高清水中学校 | 42 | 36 | 36 | 38 | 37 | 39 | 35 | 34 | 35 | 43 | 31 | 40 | 28 | 31 | 43 | 40 | 28 | 31 | 43 | |
| 学級数 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | |
| 学級規模 | 21 | 36 | 18 | 19 | 19 | 20 | 35 | 34 | 35 | 22 | 31 | 20 | 28 | 31 | 22 | 28 | 28 | 31 | 22 | |
| 一迫中学校 | 74 | 70 | 57 | 71 | 71 | 58 | 55 | 65 | 75 | 59 | 57 | 46 | 56 | 45 | 57 | 46 | 56 | 45 | 50 | |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| 学級規模 | 37 | 35 | 29 | 24 | 24 | 29 | 28 | 33 | 25 | 30 | 29 | 23 | 28 | 23 | 29 | 23 | 28 | 23 | 25 | |
| 瀬峰中学校 | 40 | 41 | 32 | 48 | 41 | 48 | 37 | 49 | 49 | 50 | 46 | 44 | 45 | 32 | 46 | 44 | 45 | 32 | 40 | |
| 学級数 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | |
| 学級規模 | 40 | 21 | 32 | 24 | 21 | 24 | 19 | 25 | 25 | 25 | 23 | 22 | 23 | 32 | 23 | 22 | 23 | 32 | 20 | |
| 鷺沢中学校 | 30 | 20 | 24 | 34 | 32 | 20 | 26 | 32 | 27 | 22 | 21 | 10 | 15 | 16 | 21 | 10 | 15 | 16 | 17 | |
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 学級規模 | 30 | 20 | 24 | 34 | 32 | 20 | 26 | 32 | 27 | 22 | 21 | 10 | 15 | 16 | 21 | 10 | 15 | 16 | 17 | |
| 金成中学校 | 72 | 57 | 81 | 74 | 55 | 69 | 53 | 58 | 61 | 55 | 55 | 52 | 44 | 51 | 55 | 52 | 44 | 51 | 37 | |
| 学級数 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| 学級規模 | 36 | 29 | 27 | 25 | 28 | 35 | 27 | 29 | 31 | 28 | 28 | 26 | 22 | 26 | 28 | 26 | 22 | 26 | 19 | |
| 志波姫中学校 | 66 | 65 | 63 | 56 | 59 | 50 | 68 | 64 | 64 | 61 | 58 | 56 | 49 | 52 | 61 | 56 | 49 | 52 | 31 | |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | |
| 学級規模 | 33 | 33 | 32 | 28 | 30 | 25 | 34 | 32 | 32 | 31 | 29 | 28 | 25 | 26 | 31 | 28 | 25 | 26 | 31 | |
| 花山中学校 | 9 | 5 | 9 | 8 | 7 | 13 | 11 | 12 | 7 | 4 | 10 | 2 | 5 | 7 | 4 | 2 | 5 | 7 | 4 | |
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 学級規模 | 9 | 5 | 9 | 8 | 7 | 13 | 11 | 12 | 7 | 4 | 10 | 2 | 5 | 7 | 4 | 2 | 5 | 7 | 4 | |
| 市内合計 | 719 | 622 | 644 | 628 | 650 | 659 | 606 | 636 | 603 | 618 | 591 | 563 | 525 | 524 | 591 | 563 | 525 | 524 | 505 | |
| 学級数 A | 18 | 16 | 24 | 24 | 25 | 24 | 22 | 22 | 22 | 23 | 22 | 22 | 20 | 20 | 22 | 22 | 20 | 20 | 20 | |
| 学級規模 A/B | 40 | 39 | 27 | 26 | 26 | 27 | 28 | 29 | 27 | 27 | 27 | 26 | 26 | 26 | 27 | 26 | 26 | 26 | 25 | |

表中の ← → は、複式学級の編制が想定される学年を示しています。
未就学児は、平成19年4月20日現在で学区内に居住する乳幼児数で推計しています。

栗原市立学校再編計画 < 前期計画 > 時の教職員配置の推計

< 小学校 >

| 年度 | 児童数(上)・学級数(下) | | | | | | 教職員数(下段:加配) | | | | | | | | | |
|-------------------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|-------|----|----|-----|------|------|-------|-----|---------------------|
| | 小6 | 小5 | 小4 | 小3 | 小2 | 小1 | 特支 | 計 | 校長 | 教頭 | 教諭 | 養護教諭 | 事務職員 | 栄養教諭等 | 計 | 加配の内訳 |
| 平成19年度 (30本分校) | 628 | 650 | 659 | 606 | 636 | 603 | 57 | 3,839 | 29 | 29 | 249 | 29 | 28 | 6 | 370 | |
| 平成25年度 (12本校) | 34 | 34 | 32 | 30 | 30 | 33 | 38 | 231 | | | 34 | | | | 404 | 少12, 言8, 複5, シ6, 他3 |
| | 618 | 591 | 563 | 525 | 524 | 505 | | 3,326 | 12 | 12 | 164 | 12 | 12 | 6 | 218 | |
| | 23 | 22 | 22 | 21 | 20 | 22 | 23 | 153 | | | | | | | | |

※H25の特別支援学級は、想定であり確定ではない。そのため通常学級のみの場合、教諭・計から23を減じた配置となる。

参考：平成19年度を基礎とした比較

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|--|------|
| 児童数 | 教職員数 | -10 | -59 | -96 | -81 | -112 | -98 | -57 | -513 | -17 | -17 | -85 | -17 | -16 | | -152 |
| 学級数 | | -11 | -12 | -10 | -9 | -10 | -11 | -15 | -78 | | | | | | | |

< 中学校 >

| 年度 | 生徒数(上)学級数(下) | | | | | 教職員数(下段:加配) | | | | | | | |
|--------------|--------------|-----|-----|----|-------|-------------|----|-----|------|------|-------|-----|---------------------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 特支 | 計 | 校長 | 教頭 | 教諭 | 養護教諭 | 事務職員 | 栄養教諭等 | 計 | 加配の内訳 |
| 平成19年度 (10校) | 644 | 622 | 719 | 29 | 2,014 | 10 | 10 | 129 | 10 | 10 | 1 | 170 | |
| | 23 | 20 | 23 | 18 | 84 | | | 17 | | | | 17 | 少12, 生指4, 兼務1 |
| 平成25年度 (8校) | 603 | 636 | 606 | | 1,845 | 8 | 8 | 103 | 8 | 8 | 1 | 136 | 特別支援学級想定を加えると147人配置 |
| | 20 | 22 | 21 | 16 | 79 | | | | | | | | |

※H25の特別支援学級は、想定であり確定ではない。そのため特別支援学級を含めると16を加えた配置となる。

参考：平成19年度を基礎とした比較

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|-----|----|------|-----|----|----|-----|----|----|--|-----|
| 生徒数 | 教職員数 | -41 | 14 | -113 | -29 | -2 | -2 | -26 | -2 | -2 | | -34 |
| 学級数 | | -3 | 2 | -2 | -2 | | | | | | | |

注1：平成19年度の「児童生徒数・学級数」はH19. 5. 1現在の各校の編制状況で、「教職員数」はH19. 4. 1現在の実数である。

注2：平成25年度の「児童数」はH19. 4. 20現在の未就学児から推計、「生徒数」はH19. 5. 1現在の小学校在籍数から推計している。

注3：学級数は、平成19年度【40人標準学級の編制】での実編制で、平成25年度【35人標準学級編制】で推計した。

注4：「加配の内訳」で示している加配種別は、以下のとおりである（加配措置は、毎年度異なるものである）。

- < 小学校 >
- ・「少」…少人数指導加配
 - ・「言」…言語級指導加配
 - ・「複」…複式学級解消加配
 - ・「シ」…学習システム整備モデル事業加配
 - ・「他」…小学校教科担任制モデル事業加配
 - ・「兼務」…兼務加配
- < 中学校 >
- ・「少」…少人数指導加配
 - ・「生」…生徒指導加配

市内小・中学校施設の状況

H19.4.1現在

| 地区 | 学校名 | 建築年月 | | | | 大規模 改 造 | 耐震診 断年度 | 保有教室等 | | 備 考 |
|-----|-------------|------------------|--------|---------|---------|---------------|--------------|-----------|-------|------------------|
| | | 校 舎 | 体 育 館 | プ ー ル | 柔 剣 道 場 | | | 普通教室 | 特別教室等 | |
| 築 館 | 築館小学校 | S57.03 | S61.02 | H09.03 | - | H18校 | H10 | 25 (3) | 8 | |
| | 玉沢小学校 | S59.02 | H06.02 | H08.03 | - | | - | 8 (3) | 6 | |
| | 宮野小学校 | S60.02 | S60.02 | S60.09 | - | | - | 7 | 5 | |
| | 宮野小栗原中央病院分校 | H14.03 | - | - | - | | - | (1) | | |
| | 富野小学校 | H05.03 | H05.03 | H06.12 | - | | - | 6 | 4 | |
| | 築館中学校 | S42.03 | S45.03 | S46.03 | - | H03校 S60屋 | H10 | 15 (3) | 7 | H22完成予定の改築後計画教室数 |
| | 築館中栗原中央病院分校 | H14.03 | - | - | - | | - | (1) | | |
| 若 柳 | 若柳小学校 | S58.08 S59.01 | S59.01 | S58.10 | - | | - | 24 (3) | 8 | |
| | 大目小学校 | H07.03 | H08.02 | H08.11 | - | | - | 6 | 4 | |
| | 有賀小学校 | S52.12 S62.12 | S60.03 | S53.07 | - | | H16 | 6 (1) | 6 | |
| | 大岡小学校 | S61.03 | S61.03 | S61.09 | - | | - | 6 | 5 | |
| | 畑岡小学校 | S60.03 | S61.01 | S57.07 | - | | - | 8 (1) | 5 | |
| | 若柳中学校 | S46.03 S47.03 | S47.08 | S50.05 | H11.09 | H02屋 | H15 | 17 (3) | 14 | |
| 栗 駒 | 岩ヶ崎小学校 | H13.03 | H11.03 | H15.12 | - | | - | 12 (1) | 5 | |
| | 尾松小学校 | S60.06 | S61.01 | H11.03 | - | | - | 10 (1) | 6 | |
| | 文字小学校 | S53.12 | S56.11 | H08.03 | - | | H17 | 6 (1) | 5 | |
| | 栗駒小学校 | H06.03 | H08.03 | H06.07 | - | | - | 6 (1) | 6 | |
| | 栗駒小耕英分校 | S40.10 | - | - | - | | - | 1 (1) | 1 | |
| | 宝来小学校 | H04.03 | H04.03 | H04.07 | - | | - | 7 | 5 | |
| | 鳥矢崎小学校 | H02.03 | H02.03 | H02.07 | - | | - | 6 | 5 | |
| | 栗駒中学校 | S47.03 S48.08 | S49.09 | S54.08 | - | H1・2校 H02屋 | H17 | 20 (3) | 14 | |
| 高清水 | 高清水小学校 | H02.08 | H04.02 | H02.08 | - | | - | 12 (2) | 6 | |
| | 高清水中学校 | S54.08 | H11.02 | S44.07 | - | H04校 | H11 | 7 (2) | 7 | |
| 一 迫 | 一迫小学校 | H06.08 | H08.03 | H06.08 | - | | - | 14 (3) | 5 | |
| | 姫松小学校 | S53.12 | S55.01 | H17.03改 | - | H09校 | H15屋 H18校 | 6 (1) | 6 | |
| | 金田小学校 | S52.02 | S55.01 | S45.06 | - | H08校 | H15屋 H18校 | 7 (1) | 5 | |
| | 長崎小学校 | S45.01 | S58.02 | S46.06 | - | H01校 | H15屋 H18校 | 6 (1) | 4 | |
| | 一迫中学校 | S48.03 S49.03 | S48.12 | S54.07 | H18.04 | H4・5校 H04屋 | H15 | 15 | 10 | |
| 瀬 峰 | 瀬峰小学校 | H18.12 | S41.11 | S51.06 | - | | - | 12 (2) | 5 | |
| | 瀬峰中学校 | S54.03 | H11.12 | H02.05 | - | | H16 | 8 | 8 | |
| 鷺 沢 | 鷺沢小学校 | H17.07 | S44.12 | S44.08 | - | | H16屋 | 7 (1) | 5 | |
| | 鷺沢中学校 | S48.03 S49.03 | S50.10 | - | S53.02 | H04校 | H16 | 8 (1) | 9 | |
| 金 成 | 沢辺小学校 | S54.03 | S54.03 | S56.07 | - | H13校・屋 | H12 | 7 (1) | 5 | |
| | 金成小学校 | S55.03 | S55.03 | S55.08 | - | | H12 | 7 (2) | 4 | |
| | 萩野小学校 | S59.02 | S59.02 | S59.07 | - | | - | 7 | 5 | |
| | 萩野第二小学校 | H07.03 | H07.03 | H07.08 | - | | - | 6 | 5 | |
| | 津久毛小学校 | S63.03 | S63.03 | S63.08 | - | | - | 7 | 5 | |
| | 金成中学校 | S45.03 S46.03 | S47.01 | H15.03 | H02.03 | H3・4校 H04屋 | H15 | 12 (3) | 10 | |
| 志波姫 | 志波姫小学校 | S50.03 | S53.03 | H17.03 | - | H04校 | H18 | 21 (1) | 5 | |
| | 志波姫中学校 | H8.12 | H11.09 | S45.09 | S54.03 | | - | 9 (1) | 10 | |
| 花 山 | 花山小学校 | S57.01 | H07.03 | S33.07 | - | | H18 | 7 | 4 | |
| | 花山中学校 | S40.09 | S55.02 | S42.08 | - | | H13校 H18屋 | 6 | 7 | |

下段の()は特別支援教室



栗原市立学校再編計画

平成20年 3 月

企画・編集 **栗原市教育委員会**

〒987-2215 栗原市築館高田二丁目1番10号

教育部 教育環境推進室

TEL (0228) 23 - 2234

FAX (0228) 23 - 2231

e-mail : kyokan@kuriharacity.jp